

● 内閣恩給局ニ顧問醫ヲ置クノ件

明治二十七年五月
勅令第四十九號

朕内閣恩給局ニ顧問醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 内閣恩給局ニ顧問醫ヲ置キ其ノ定員ヲ三名トシ内一名ヲ常務顧問醫トス
- 第二條 顧問醫ハ恩給局長ノ諮詢ニ應ジ恩給及扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス但恩給局長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クニ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審査ス
- 第三條 審査上特種ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得
- 第四條 顧問醫ハ恩給局長ニ於テ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ囑托ス
- 第五條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ每件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス

第四節 賞勳局

●賞勳局官制

明治二十六年十月
勅令第百十六號

改正

●明治三十一年十一月
勅令第百五十二號

朕賞勳局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳局官制

第一條 賞勳局ハ内閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 勳位、勳章及年金ニ關スル事項
- 二 記章、褒章其ノ他賞件ニ關スル事項
- 三 外國ノ勳章、記章ノ受領及佩用ニ關スル事項

第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁	一人	勅任
書記官	專任二人	奏任
屬	六人	判任

第三條 總裁ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條 (削除)

第五條 奏任官ノ進退ハ總裁之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第六條 書記官ハ總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●賞勳會議規程

明治二十六年十月
勳令第百十七號

改正

●明治三十一年十月
勳令第百五十三號

朕賞勳會議規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳會議規程

- 第一條 勳位、勳章及年金ノ授賜又ハ褫奪ノ當否ヲ議定スル爲賞勳局ニ賞勳會議ヲ設ク
- 第二條 賞勳會議ハ賞勳局總裁及議定官ヲ以テ組織ス
- 第三條 賞勳會議ノ議長ハ賞勳局總裁ヲ以テ之ニ充ツ總裁事故アルトキハ上席議定官之ヲ代理ス
- 第四條 議定官ハ十五人以内トシ勳任官ニシテ勳一等以上ノ者ノ中ヨリ之ニ補ス
- 第五條 前條ノ外特ニ皇族ヲ以テ議定官ニ補セラルルコトアルヘシ
- 第六條 勳位、勳章及年金ノ授賜又ハ褫奪ハ議定官八人以上ノ議ヲ經ルコアラサレハ之ヲ上奏スルコトヲ得ス
- 第七條 議定官ノ議ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第八條 賞勳會議ノ事務ハ賞勳局總裁之ヲ管掌ス

附則

第九條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第五節 法制局

● 法制局官制

明治二十六年十月
勅令第百十八號

改正

● 明治三十一年十月
勅令第百五十四號

● 明治三十五年三月
勅令第百五十七號

朕法制局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法制局官制

第一條 法制局ハ内閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト
- 二 法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ内閣ニ上申スルコト
- 三 各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ内閣ニ上申スルコト

四 前諸項ニ掲ル者ノ外内閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコト

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官 一人 勅任
 - 參事官 專任十人 奏任
 - 但シ内二人ハ勅任トス
 - 書記官 二人 奏任
 - 屬 專任九人 奏任
 - 判任 之ヲ兼テシム
- 法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第一部

第二部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 長官ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條 奏任官ノ進退ハ長官之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 長官事故アルトキハ上府參事官其ノ職務ヲ代理ス

第六條 參事官ハ長官ノ命ヲ承テ審議立案ヲ掌ル

第七條 書記官ハ長官ノ命ヲ承テ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承テ庶務ニ従事ス

附則

第九條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第六節 印刷局

印刷局官制

明治三十一年十月
勅令第二百五十六號

改正

明治三十三年三月
勅令第五十八號
明治三十五年三月
勅令第五十八號

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

第一條 印刷局ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官報、法令全書及職員錄ノ編輯並發賣ニ關スル事項

二 官報其ノ他ノ印刷ニ關スル事項

三 印紙、郵便切手並諸證券類ノ製造ニ關スル事項

四 抄紙ニ關スル事項

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 勅任

事務官 專任一人 奏任

技師 專任六人

屬 三十四人

技手 四十二人

第三條 局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承テ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承テ事務ヲ掌ル

- 第五條 技師ハ局長ノ命ヲ承ケ工務ヲ監理ス
- 第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス
- 附則
- 第八條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

第七節 文官試験委員

文官試験委員官制

明治二十七年五月
勅令第五十四號

朕文官試験委員官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
文官試験委員官制

第一章 文官高等試験委員

- 第一條 文官高等試験委員ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ文官高等試験及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務並文官普通試験科目ニ關スル事務ヲ掌掌ス
- 第二條 文官高等試験委員ハ委員長常任委員及臨時委員ヲ以テ組織シ各官廳高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- 第三條 文官高等試験委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ統理ス
- 第四條 文官高等試験常任委員ハ三人ヲ以テ定員トス委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試験及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務並文官普通試験科目ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第五條 文官高等試験臨時委員ハ文官高等試験施行ノ際之ヲ命ス委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試験ノ事ヲ掌ル
- 第六條 文官高等試験委員長及常任委員ニハ一箇年三百圓以内臨時委員ニハ二百圓以内ニ於テ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當トシテ之ヲ給ス
- 第七條 文官高等試験委員ノ事務ニ關シ常任書記及臨時書記ヲ置ク
- 第八條 常任書記ハ内閣所屬又ハ法制局判任官臨時書記ハ各官廳ニ奉職スル吏員ノ中又ハ其ノ他ヨリ之ヲ命ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 常任書記ハ三人ヲ以テ定員トス臨時書記ハ文官高等試験施行ノ際必要ニ應シ之ヲ命ス

第十條 書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ百圓以内ノ手當ヲ給ス

第二章 文官普通試験委員

第十一條 文官普通試験委員ハ之ヲ各官廳ニ置シ長官ノ監督ニ屬シ文官普通試験及判任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌掌ス

第十二條 中央官廳ノ文官普通試験委員長及委員ハ長官其ノ廳ノ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第十三條 地方官廳ノ文官普通試験委員長及委員ハ長官其ノ廳ノ官吏及府縣立學校教官ノ中ヨリ之ヲ命ス但北海道ニ在テハ札幌農學校教官ヲ以テ之ニ加フルコトヲ得

第十四條 文官普通試験委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ統理ス

第十五條 文官普通試験委員ハ委員長ノ監督ヲ承ケ文官普通試験及判任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 文官普通試験委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ各官廳ノ判任官ノ中ヨリ之ヲ命ス書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八節 法典調査會

法典調査會規則

明治二十七年三月 勅令第三十號

改正

●明治三十一年八月 勅令第百八十二號
●明治三十二年三月 勅令第四十八號

朕法典調査會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法典調査會規則

第一條 法典調査會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ法典及附屬法令ノ改正又ハ制定ニ關スル事項ヲ起案審議シ並條約ノ實施ニ必要ナル事項ヲ調査ス

前項ニ掲ケタル事項ノ外法令ニ關シ内閣總理大臣ノ諮詢アルトキハ意見ヲ上申ス

第二條 法典調査會ハ總裁、副總裁各一人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 總裁、副總裁及委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條 委員ニシテ引續キ二箇月以上會議ニ出席セサル者アルトキハ總裁ヨリ之ヲ内閣總理大臣ニ具申ス

前項ノ場合ニ於テハ内閣總理大臣ヨリ奏請ノ上其委員ヲ免ス

第五條 法典調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

第六條 總裁ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内閣總理大臣ニ具申ス

第七條 副總裁ハ總裁ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ管理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副總裁ハ前項ノ外委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列ス

第八條 法典調査會ニ部長四人、起草委員及主査委員若干人ヲ置キ委員中ニ就キ總裁之ヲ命ス

第九條 總裁副總裁及委員ニハ一箇年千圓以内ノ手當ヲ給ス但起草委員及主査委員ニハ二千圓以内ヲ給スルコトヲ得

第十條 法典調査會ニ補助委員八人以内ヲ置キ起草委員及主査委員ノ職務ヲ補助セシム

第十一條 法典調査會ニ書記若干人ヲ置キ議事ノ筆記及庶務ニ従事セシム

第十二條 補助委員ニハ一箇年六百圓以内ノ書記ニハ五百圓以内ノ手當ヲ給ス

●第九節 政務調査委員

●政務調査委員官制 明治三十五年三月勅令第四十四號

朕政務調査委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政務調査委員官制

第一條 政務調査委員ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ諸般ノ政務ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 委員ハ三十人以内トシ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第三條 政務調査ノ事務ニ關シ主事二人書記若干人ヲ置シ

主事ハ委員ノ中ヨリ書記ハ判任官ノ中又ハ其ノ他ヨリ内閣總理大臣之ヲ命ス

主事ハ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十節 鑛毒調査委員會

鑛毒調査委員會官制

明治三十五年三月
勅令第四十五號

朕鑛毒調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛毒調査委員會官制

- 第一條 鑛毒調査委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鑛毒ニ關スル實況及處分ノ方法ヲ調査ス
- 第二條 鑛毒調査委員會ハ委員長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 委員長及委員ハ内閣、内務省、大藏省、農商務省ノ高等官及帝國大學教授ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- 第四條 委員長ハ會務ヲ處理シ調査ノ結果ヲ内閣總理大臣ニ具申スヘシ
- 第五條 委員長ハ調査事項ニ關シ關係官廳ニ事實ノ説明及書類ノ提供ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 委員長ハ事項ヲ指定シ關係官廳ニ其ノ調査ヲ求ムルコトヲ得
- 第七條 委員ハ委員長ノ指揮ヲ承テ調査ニ從事ス
- 第八條 鑛毒調査委員會ニ主事一人ヲ置ク
- 第九條 主事ハ委員長所屬官廳高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- 第十條 鑛毒調査委員會ニ書記若干人ヲ置キ委員長所屬官廳判任官ノ中又ハ其ノ他ヨリ委員長之ヲ命ス
- 書記ハ上司ノ指揮ヲ承テ庶務ニ從事ス

第 二 章
樞 密 院

現行法規集第一篇第二章目錄

◎第一編 官制處務

◎第二章 樞密院

◎第一節 樞密院事務規程

●樞密院官制及事務規程……………一

●樞密院ニ屬シ置ク……………二

●樞密院屬定員……………三

○第一篇 官制

處務 服務

◎第二章 樞密院

◎第一節 樞密院事務規程

●樞密院官制及事務規程

明治二十一年四月 勅令第百二十二號

改正

●明治二十三年十月 勅令第百十六號

●明治二十六年十月 勅令第百二十號

●明治三十六年七月 勅令第百十七號

朕元勳及ヒ練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其ノ啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其ノ官制及ヒ事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十八人書記官長一人書記官三人ヲ以テ組織ス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼テシムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義
 三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令
 四 列國交渉ノ條約及約束
 五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項
 六 前諸項ニ掲ケルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項
 第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ
 第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問クリト雖モ施政ニ關與スルコトナシ
 第三章 會議及事務
 第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ
 第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及ヒ説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラズ
 第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル
 第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス
 副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス
 第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受テ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラズ
 書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ補佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス
 第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ
 樞密院事務規程
 第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述フ
 第二條 樞密院ハ帝國議會若シハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス
 第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス
 第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム
 議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若シハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ
 第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ
 臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ
 第六條 議長ハ審査報告書ヲ整理スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ選延スルコトヲ許サズ
 内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ閉シノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ
第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質
第二會議ノ前文書記達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員
ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼スルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ依リシ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議長ノ
許可ヲ受ルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ風スルモノトス討論既ニ
盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム議長ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得
此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閲ヲ請フ
ヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレシ
トヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

● 樞密院ニ屬シ置ク

明治二十一年五月
勅令第四十一號

朕樞密院ニ屬シ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
樞密院ニ屬シ置ク件トス

● 樞密院屬定員

明治二十六年十月
勅令第三百二十一號

改正

● 明治三十五年三月
勅令第五百十九號

朕樞密院屬定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
樞密院屬ハ九人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第參章 宮内省所管

行現法規集第一篇第三章目錄

○第一篇 官制處務服務

○第三章 宮內省所管

●第一節 宮內省

●宮內省官制

●第二節 侍從職幹事

●侍從職幹事官制

●第三節 侍從武官

●侍從武官官制

●第四節 御料局支廳

●御料局支廳職制

●第五節 皇宮警察官

●皇宮警察官服務規程

五

四

三

二

一

●第六節 御歌所 六

●第七節 東宮職

●東宮職官制 七

●第八節 東宮武官

●東宮武官官制 八

●第九節 東宮御所御造營局

●東宮御所御造營局官制 九

●第十節 內大臣、宮中顧問官、內大臣祕書官

●內大臣、宮中顧問官及內大臣祕書官官制 一〇

●第十一節 文事祕書局

●文事祕書局官制 一一

●第十二節 皇室制度調查局

●皇室制度調查局官制 一二

●第十三節 皇族職員

●皇族職員職制 一三

●第十四節 皇族附武官

●皇族附陸軍武官官制 一四

●皇族附海軍武官官制 一五

●第十五節 皇室博物館

●皇室博物館官制 一六

●第十六節 學習院

●學習院官制 一七

●第十七節 華族女學校

●華族女學校職員及官等俸給 一八

●第十八節 定員外宮內官

●外國政府ノ招聘ニ應スル宮內官ヲ定員外トナスノ件 一九

ルコトヲ得

第五條 宮内大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依リ救恤褒賞贈賜ノ事ヲ施行ス

第六條 宮内大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得又次官事故アルトキ及所部各部長缺員若クハ事故アルトキハ裁可ヲ經テ所部高等官ニ其代理ヲ命スルコトヲ得

第八條 宮内大臣ハ次官及所部各部長ニ其事務ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得

第九條 宮内大臣ハ所部各局内ノ各課ヲ廢置分合シ及其職務規程ヲ定ムルコトヲ得

第十條 宮内大臣ハ所部奏任官ノ進退ハ之ヲ上奏シ判任官ノ進退及奏任官以下俸給定限内ノ増減ハ之ヲ專行ス准官モ亦同シ

第十一條 宮内大臣ハ所部各官定員内ニ於テ奏任官試補判任官見習ヲ置クコトヲ得准官モ亦同シ

第十二條 宮内大臣ハ裁可ヲ經ルニ非サレハ官制定限外ニ所部高等官ヲ増加シ又ハ兼任ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十三條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅奏任官又ハ華族ニ委員ヲ命スルコトヲ得其所部外ニ涉ル者ハ豫メ該長官ノ承諾ヲ受ク可シ

第十四條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ補助員顧問員評議員ヲ置クコトヲ得其奏任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フヘシ

第十五條 宮内大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ資格ヲ定メ華族ニ勤務ヲ命スルコトヲ得其奏任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ上奏ス可シ

第十六條 宮内大臣ハ豫算金額内ヲ以テ所部官吏及委員補助員顧問員評議員勤務華族ニ賞與又ハ報酬ヲ爲スコトヲ得其賞與ノ奏任以上及同等ノ待遇ニ屬スルモノハ上奏ス可シ

第十七條 宮内大臣ハ旨ヲ奉シテ皇族ノ敍勅ヲ賞勅局總裁ニ示命ス可シ又所部官吏ノ敍勅ハ賞勅局總裁ニ申牒ス可シ

第十八條 宮内大臣ハ例規ニ依リ文武官宮内官及華族士民ノ敍位ヲ上奏及奉宣ス

第十九條 宮内大臣ハ事務ノ現況ニ依リ所部官吏ニ非職休職ヲ命シ又ハ復職セシムルコトヲ得其勅任官ニ係ルモノハ裁可ヲ請フ可シ

第二十條 宮内大臣ハ例規ニ照シ所部官吏ヲ懲戒スルコトヲ得

第二十一條 (明治二十四年三月皇實會計法制定ニ付消滅)

第二十二條 (同上)

第二十三條 宮内大臣ハ帝室會計審査ノ實務ニ關涉スルコトヲ得ス

第二十四條 宮内省ニ宮内次官一人ヲ置シ勅任一等トス宮内大臣ヲ輔ケテ省務ヲ管理ス又大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事務ハ之ヲ專行ス

第二十五條 宮内省ニ宮内書記官六人ヲ置シ奏任トス宮内大臣及次官ノ命ヲ承ケテ省務ヲ掌理ス但親王ニ專屬スル書記官ヲ置シハ此限ニ在ラズ

第二十六條 宮内大臣官房ニ左ノ職員ヲ置キ官房ノ庶務ヲ管理ス
宮内大臣秘書官 二人 奏任

大臣ニ專屬シテ文書往復其他官房内ノ庶務ヲ掌理ス但シ省務ノ現況ニ依リ書記官又ハ各部局ノ事務ヲ補助セシムルコトアル可シ

宮内風 判任

第二十七條 宮内省ニ内事外事調査ノ三課ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ統理ス
内事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

内事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス

内事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

外事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

外事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス

外事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

調査課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

帝室ニ關スル制令法規及財産財務ニ關スル文案ヲ起草審査シ兼テ報告統計ノ事ヲ掌理シ課員ヲ

監督ス

調査課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補

課務ヲ掌理ス

宮内屬 判任

第二十八條 宮内省ニ左ノ各部局ヲ設ケ事務ヲ分管ス

侍從職

式部職

皇后宮職

内藏寮

御料局

爵位局

大膳職

主殿寮 附皇宮警察署

圖書寮

内匠寮

主馬寮

諸陵寮

侍醫局

主獵局

調度局

帝室會計審査局

第二十九條 侍從職ニ左ノ職員ヲ置キ常侍奉仕シ主管ニ屬スル御服御物ヲ監守ス

侍從長 一人 親任

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

侍從 十五人 二人二等 十三人三等以下六等以上

常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス

侍從試補 三人 七等八等

掌侍從ニ亞シ

侍從屬 判任

第三十條 式部職ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ祭儀典式及雅樂ノ事ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

但式部官掌典ハ名譽職ヲ置シコトヲ得

式部長 一人 一等
 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
 式部次長 一人 二等
 職務ヲ掌理ス
 式部主事 二人 奏任
 庶務ヲ掌理ス
 式部官 二十八人 二等五人及三等以下ノ内十七人ヲ名譽官トス
 儀式ノ務ニ服ス
 式部屬 判任
 掌典長 一人 一等
 祭典ヲ掌ル
 掌典 九人 奏任
 祭典ニ從事ス
 掌典補 判任
 雅樂部長 一人 准奏任三等四等
 樂部ヲ掌理シ部員ヲ監督ス
 雅樂部副長 一人 准奏任五等六等
 掌部長ニ亞シ
 雅樂師長 一人 准八等
 教授及奏樂ヲ掌ル

樂師長 一人 准八等
 教授及奏樂ヲ掌ル
 雅樂師 准判任 四等以上
 雅樂手 雅樂師 准判任 五等
 雅樂生 判任 四等以上
 樂手 准判任 五等
 樂生 判任 六等
 第三十一條 (明治三十年四月宮内省達甲第四號ニテ消滅)
 第三十二條 皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事及内廷ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 皇后宮大夫 一人 一等
 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
 皇后宮亮 一人 奏任
 職務ヲ掌理ス
 皇后宮屬 判任
 第三十三條 内藏寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室經費及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス
 内藏頭 一人 一等二等
 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
 内藏主事 二人 奏任
 寮務ヲ掌理ス
 内藏屬 判任
 第二十四條 御料局ニ左ノ職員ヲ置キ世傳御料及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス

御料局長 一人 一等二等
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 御料局主事 一人 奏任
 局務ヲ掌理ス
 御料局理事 四人 奏任
 支廳長ニ補ス其職制ハ別ニ之ヲ定ム
 御料局屬 判任
 御料局技師 二十八人 奏任
 御料地ノ實業ニ從事ス
 御料局技手 判任
 御料局技手補 判任四等以下
 第三十五條 御位局ニ左ノ職員ヲ置キ御位及華族ニ關スル事務ヲ管理ス
 御位局長 一人 一等二等
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 御位局主事 三人 奏任
 局務ヲ掌理ス
 御位局屬 判任
 第三十六條 大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御饗宴及其器具ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 大膳大夫 一人 二等三等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
 大膳亮 一人 四等以下
 職務ヲ掌理ス
 大膳屬 判任
 膳部長 准判任一等二等
 膳部副長 准判任二等三等四等
 膳部 准判任三等以下
 膳部補 等外
 第三十七條 主殿寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮及其附屬物件並ニ鎖鑰洒掃鋪設ニ關スル事務ヲ管理シ兼テ皇宮警察署ヲ統轄ス
 但侍從職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラズ
 主殿頭 一人 二等三等
 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
 主殿助 二人 四等以下
 寮務ヲ掌理ス但一人ハ京都出張所長ニ補ス
 主殿屬 判任
 皇宮警察長 一人 四等五等
 宮殿離宮ノ守門防火警察ノ事ヲ掌理シ部下ヲ監督ス
 皇宮警察次長 一人 六等以下
 署務ヲ掌理ス

判任五等以上

皇宮警部

判任六等

皇宮警手

判任待遇

舍人

准判任
准判任官准官ノ内ヨリ兼補

内舍人

准判任三等以下

仕人

等外

第三十八條 圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ圖書記録ヲ保管シ皇統譜皇族牒籍ニ關スル事務ヲ管理ス

圖書頭

一人 二等三等

寮務ヲ掌理シ寮員ヲ監督ス

圖書助

一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

圖書屬

判任

第三十九條 内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭園及廳舍ノ土木ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

會計ヲ掌ル

内匠頭

一人 二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

内匠助

一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

内匠屬

判任

内匠寮技師

五人 奏任

土木ノ實業ニ從事ス

内匠寮技師

判任

第四十條 主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬及牧場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

主馬頭

一人 二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

主馬助

一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

主馬屬

判任

車馬監

一人 五等以下

車馬乘具ヲ管守シ馬匹飼養調習醫療ノ事ヲ監督ス

調馬師

三人 六等以下

乘馬調習ニ從事ス

馬醫師

一人 六等以下

馬匹醫療ニ從事ス

主馬寮技師

三人 奏任

牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ從事ス

馬醫

判任

主馬寮技師

判任

調馬手

准判任

取者

准判任

掌車

准判任

第四十一條 諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

諸陵頭 一人 二等三等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

諸陵亮 一人 四等以下

寮務ヲ掌理ス

諸陵頭 判任

諸陵寮技手 判任

守長 判任待遇

守部 判任待遇

守部 等外

第四十二條 侍醫局ニ左ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛生ニ關スル事務ヲ管理ス

侍醫局長 一人 勅任侍醫ヨリ兼任

侍醫 十六人 一等以下

診候醫藥衛生ニ從事ス

侍醫局主事 三人 兼任 侍醫ヨリ兼任

局務ヲ掌理ス

醫員 判任

藥劑師長 一人 五等以下

藥品製煉監査及調劑ヲ掌理ス

藥劑師 判任

侍醫局屬 判任

第四十三條 主獵局ニ左ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

但主獵官ハ名譽職トス

主獵局長 一人 二等三等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

主獵局主事 一人 四等以下

局務ヲ總理ス

主獵官 十五人 二等以下

主獵ニ從事ス

主獵局屬 判任

主獵局監守長 准判任三等以下

主獵局監守 判任待遇

主獵局應匠長 准判任三等以下

第四十四條 調度局ニ左ノ職員ヲ置キ御服御物及宮中省中需用物品被服購買修補運搬ニ關スル事務ヲ

管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌リ兼テ省中洒掃ノ事ヲ掌ル

但皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

調度局長 一人 二等三等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

調度局主事 一人 四等以下

局務ヲ掌理ス

判任

第四十五條 帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ財計ヲ監査ス

帝室會計審査局長 一人 二等三等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

帝室會計審査局主事 一人 奏任
帝室官ヨリ兼任

局務ヲ掌理ス

帝室會計審査官 五人 三等以下六等以上

帝室ノ財計審査ヲ掌ル

帝室會計審査官補 帝室會計審査官定員
内ヲ以テ之ヲ置ク 六等以下

帝室會計審査官ノ職務ヲ補助ス

帝室會計審査局屬 判任

第四十六條 前條條各官勅奏判ノ等級ニ規定ナキモノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ三等ヨリ八等ニ至リ判任ハ一等ヨリ六等ニ至ルモノトス准官モ亦同シ

第四十七條 省中各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル准官モ亦同シ

第四十八條 四等五等ハ每等在職三年六等七等八等ハ每等在職二年ヲ踰ユルコト非サレハ陞級スルコトヲ得ス其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ其期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ

第四十九條 判任官二等三等四等五等ハ每等在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞級スルコトヲ得ス准官モ亦同シ

亦同シ

第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙丁四表ノ定ムル所ニ依ル

第五十一條 勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸ヲ賜フコトアル可シ

第五十二條 三等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ノ上奏ニ依リ其俸六分ノ一マテ増賜スルコトアル可シ

第五十三條 判任官最上俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務熟練優等ナルモノハ特別ヲ以テ月俸三分ノ一マテ増給スルコトアルヘシ

第五十四條 (削除)

第五十五條 各部部长ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内奏任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得

第五十六條 次官各部部长及書記官ハ皆命ヲ大臣ニ承ルモノトス其他各部局員ハ皆命ヲ主務上官ニ承ルモノトス其直ニ旨ヲ奉シ又ハ大臣若シハ上官ノ命ヲ承タルトキ問ハス其主任ノ事務ニ付テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ

但經常旨ヲ奉シ又ハ大臣若シハ上官ノ委任ヲ承シ可キ條項及其處務規程ハ別ニ之レヲ定ム

第五十七條 第十一條ノ奏任官試補判任官見習ハ試験ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内試験ヲ要セズ

第五十八條 試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ本官ニ任スルコトヲ得ス但其本官ニ任スルハ試補ハ六等以下トシ見習ハ五等以下トス

第五十九條 各官廳ニ於テ會テ滿五年以上奏任官ヲ奉職セシモノハ前條ノ例ニ依ラス試験ヲ經テ直ニ

本官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ

第六十條 各部署局長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ備員ヲ置クコトヲ得其給額ハ本官俸ヲ踰ユルコトヲ得ス准官モ亦同シ

第六十一條 各部署局長ハ前條ノ外雜役ニ供スル備員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六十二條 省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ供スル備員ノ定員ハ宮内大臣之ヲ定ム可シ

甲 宮内省高等官俸給表

俸給等	勅任官							
	第一等	第二等	第三等	第四等	第五等	第六等	第七等	第八等
第一級俸	六千圓	四千圓	三千五百圓	二千八百圓	貳千四百圓	千八百圓	千貳百圓	九百圓
第二級俸	五千五百圓	三千五百圓	三千圓	二千六百圓	貳千貳百圓	千六百圓	千百圓	八百圓
第三級俸	五千圓	三千圓	二千八百圓	二千四百圓	貳千圓	千四百圓	千圓	七百圓
第四級俸	四千五百圓	二千八百圓	二千五百圓	二千二百圓	千八百圓	千貳百圓	九百圓	六百五十圓
第五級俸		二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千六百圓	千百圓	八百圓	六百五十圓
第六級俸				千八百圓	千四百圓	千圓	七百圓	五百五十圓
第七級俸				千六百圓	千二百圓	九百圓	六百五十圓	五百圓
第八級俸					千百圓	八百圓	六百圓	四百五十圓

勅任官

一宮内大臣ハ第一級俸ヲ賜フ

一侍從長ハ第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

勅任官

一宮内官一等二等ハ總テ其等位ニ依リ一級俸ヨリ四級俸マテノ内ヲ給ス

但侍從學典長東宮侍從長ハ其等位ニ依リ二級俸ヨリ五級俸マテノ内ヲ給ス

一侍醫ノ俸給ハ二等二等ハ第一級俸ヨリ第五級俸マテノ内ヲ給ス

一御歌所長ノ俸給ハ第二級俸ヨリ第五級俸マテノ内ヲ賜フ

勅任官

一書記官秘書官内藏主事御料局主事理事各技師班馬醫馬師醫師醫師局主事侍從醫師長帝室會計醫官局主事醫官密書官

類ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

一侍從侍從試補式部職主事式部官皇后宮亮侍從局主事大膳大夫亮主殿頭助圖書頭助内匠頭助主馬頭助膳頭助主獵局長主事調

度局長主事皇宮警衛長次長ハ各其等位ニ依リ第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸ノ内ヲ賜フ

一樂典ハ各其等位ニ依リ第五級俸第六級俸第七級俸第八級俸ノ内ヲ賜フ

乙 宮内省技官俸給表

俸給等	勅任官							
	第一等	第二等	第三等	第四等	第五等	第六等	第七等	第八等
第一級俸	二千八百圓	二千四百圓	二千圓	一千六百圓	一千二百圓	八百圓	六百圓	四百圓
第二級俸	二千六百圓	二千二百圓	一千八百圓	一千四百圓	一千圓	七百圓	五百圓	三百圓
第三級俸	二千四百圓	二千圓	一千六百圓	一千二百圓	八百圓	六百圓	四百圓	三百圓
第四級俸	二千二百圓	一千八百圓	一千四百圓	一千圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓

第一編 官制 第三章 宮内省所管 第一節 宮内省

●第二節 侍從職幹事

●侍從職幹事官制

明治二十三年十月
宮内省令第十八號

侍從職ニ幹事ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

幹事

一人 勅任

侍從長ヲ輔ケ職務ヲ整理シ職員ヲ監督ス

◎第三節 侍從武官

●侍從武官官制

明治二十九年四月
勅令第百十三號

改正

明治三十年八月
勅令第百六十四號

朕侍從武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

侍從武官官制

第一條 侍從武官ヲ置ク左ノ如シ

侍從武官長

侍從武官高級故參ノ者ヲ以テ之ニ補ス

侍從武官

陸軍將官及佐尉官
海軍將官及佐尉官 三 五

第二條 侍從武官ハ

天皇ニ常侍奉仕シ軍事ニ關スル奏上奉答及命令ノ傳達ニ任シ又觀兵演習行幸其他祭儀禮典宴會謁

見等ニ陪侍扈從ス

第三條 侍從武官ハ演習其他軍事上視察ノ爲メ差遣セラルルコトアルヘシ

第四條 侍從武官ハ宮中ニ在リテハ宮内省ノ規程ヲ遵奉スヘシ

第五條 侍從武官長ハ侍從武官ノ勤務ヲ規定シ且之ヲ監督ス

第六條 侍從武官ハ皆參謀官トス

第七條 第一條ニ掲グル人員ノ外侍從武官ニ陸海軍屬各二名ヲ附ス

●第四節 御料局支廳

●御料局支廳職制

明治二十二年九月
宮内省達第十六號

改正 ●明治三十六年六月
送甲第三號

御料局支廳職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

御料局支廳職制

第一條 御料財產ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料局支廳ヲ設置ス

支廳ノ下ニ出張所ヲ置ク其ノ位置並ニ管轄區域ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二條 御料局支廳ニ左ノ職員ヲ在勤セシム

理事

技師

屬

技手

技手補

監守

第三條 支廳管内廣濶ナルトキハ監督ヲ置キ技師屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ監督ス

第四條 支廳長ハ御料局長ノ命ヲ承ケ其部内ノ財産及一切ノ業務ヲ掌理シ所轄官吏ヲ監督ス

第五條 技師屬技手技手補監守ハ各其主務ニ従事ス

第六條 出張所長ハ屬又ハ技手技手補ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 支廳及出張所ノ處務規程ハ宮内大臣之ヲ定ム
 第八條 支廳ノ會計ハ其業務ノ都合ニヨリ御料局長ニ於テ宮内大臣ノ認可ヲ經テ特別會計規則ニ據ル
 コトヲ得其規則ハ宮内大臣之ヲ定ムヘシ
 第九條 支廳長ハ業務ノ都合ニヨリ特ニ備員ヲ置クコトヲ得

第五節 皇宮警察官

皇宮警察官服務規程

明治十九年五月
 宮内省通第大號

改正 ●明治二十一年
 十二月十四日

皇宮警察署

皇宮警察官服務規程左ノ通相定ム

皇宮警察官服務規程

- 第一條 皇宮警察官ハ宮城離宮禁苑ノ巡邏查察諸御門ノ開閉通行人及出入物品ノ検査惡疫流行病ノ豫
 防火災豫防及消防ノ事ヲ掌ル
- 第二條 警察長ハ主殿頭ノ命ヲ承ケ前條ノ主務ヲ總管シ警部以下ヲ指揮監督ス警察次長ハ警察長ノ職
 務ヲ佐ケ其事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第三條 警部以下ハ警察長ノ命ヲ承ケ第一條ニ掲クル職務ヲ執行シ及署中ノ庶務ヲ整理ス
- 第四條 前條服務規程ニ關スル細則ハ主殿頭ノ認可ヲ經警察長之ヲ定ム

●第六節 御歌所

●御歌所官制

明治三十年十月
宮内省通甲第七號

北海道廳、府縣並華族一般

御歌所官制左ノ通相定ム

御歌所官制

第一條 御歌所ニ左ノ職員ヲ置シ

御歌所長

一人 勅任

天皇 皇后兩陛下ノ御製ニ關スル事ヲ掌リ兼テ臣民ノ詠進ヲ管理シ所務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

御歌所主事

一人 奏任

長ノ命ヲ承テ所務ヲ掌理ス

御歌所寄人

七人 名譽職 勅任又ハ奏任ノ待遇トス

長ノ命ヲ承テ短歌長歌唱歌等ニ關スル編纂撰述ヲ分掌ス

御歌所參候

十五人 名譽職 奏任待遇トス

長ノ命ヲ承テ歌御會ノ儀式典例ヲ掌理ス

御歌所録事

判任

上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二條 所長及主事ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ第二級俸ヨリ第五級俸マテノ内
ヲ賜ヒ餘事俸給ハ同條屬官官等俸給表ニ依ル

第三條 此ノ官制中別段ノ規定ナキモノハ總テ宮内省官制ニ依ル

第七節 東宮職

●東宮職官制 明治二十二年十一月 宮内省達第百二十一號

正 改

- 明治二十二年十二月達第百二十七號
- 明治二十三年六月 第五號
- 明治二十四年六月 甲第一號
- 明治二十四年十二月 甲第四號
- 明治二十五年七月 甲第一號
- 明治二十七年七月 甲第三號
- 明治二十九年六月 甲第二號
- 明治三十年九月 甲第六號
- 明治三十年十二月 甲第十二號
- 明治三十三年一月 甲第一號
- 明治三十四年十二月 甲第五號

宮内省中東宮職ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

東宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服用度營繕及主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

東宮大夫 一人 一等又ハ二等

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

東宮主事 二人 三等以下

職務ヲ掌理ス

東宮侍從長 一人 二等

常侍奉仕シ侍從ヲ監督ス

東宮侍從 五人 奏任

常侍奉仕ス

東宮侍講 五人 勅任又ハ奏任五等以上

侍讀進講シテ御學徳ヲ涵養スルコトヲ掌ル

東宮屬 判任

東宮内舍人 准判任三等以下

仕人 等外

一 東宮大夫俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表勅任ノ部第二項ニ東宮侍從長俸給ハ同第四項ニ東宮亮及東宮侍從俸給ハ同奏任ノ部第二項ニ依ル(明治二十四年十二月宮内省達甲第四號參看)
一 侍講ノ俸給ハ左表ニ依ル

東宮侍講俸給表					
俸給官等	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
一 級 俸	二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
二 級 俸	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千二百圓
三 級 俸	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓
四 級 俸	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓
五 級 俸	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓
六 級 俸			千四百圓	千二百圓	千圓

一 東宮内舍人及仕人俸給ハ同條准官俸給表主殿寮内舍人及仕人ニ同シ

●第八節 東宮武官

●東宮武官官制 明治三十年十月勅令第三百七十一號

改正 明治卅一年六月勅令第三百號

朕東宮武官官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東宮武官官制

第一條 東宮武官ヲ置シ左ノ如シ

東宮武官長 東宮武官中高級故參ノ者ヲ以テ之ニ補ス

東宮武官 陸軍將官及佐尉官 五

海軍將官及佐尉官 三

第二條 東宮武官長武官ハ

皇太子ノ威儀整飾ヲ奉助シ行軍、觀兵、演習、其他ノ軍務及祭儀、禮典、宴會、謁見等ニ陪侍扈從ス

第三條 東宮武官ハ常侍奉仕ス

第四條 東宮武官長武官ハ 行啓、祭儀、禮典、宴會、謁見等ノ事項ニ於テハ宮内省ノ規則ヲ遵奉スヘシ

第五條 東宮武官長ハ武官ノ勤務細則ヲ規定ス

第六條 第一條ニ掲グル職員ノ外東宮武官ニ陸軍屬二名海軍屬一名ヲ附ス

●第九節 東宮御所御造營局

●東宮御所御造營局官制

明治三十一年八月
宮内省達甲第六號

改正

●明治三十二年六月達甲第四號
●明治三十四年三月達甲第二號

宮内省中ニ東宮御所御造營局ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

東宮御所御造營局官制

第一條 東宮御所御造營局ハ東宮御所御造營局ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌ス

第二條 東宮御所御造營局ニ左ノ職員ヲ置ク

長 一人 勅任

事務官 二人 二等一人三等以下一人
宮内省官ヨリ兼任

屬 六人 判任

技監 一人 二等

技師 四人 三等以下

技手 十六人 判任

第三條 長ハ宮内大臣ノ監督ヲ承ク所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總理ス

第四條 事務官ハ長ノ命ヲ承ク庶務會計ヲ掌理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ク庶務會計ニ從事ス

第六條 技監ハ長ノ命ヲ承ク工務ヲ掌理ス

第七條 技師ハ長又ハ技監ノ命ヲ承ク工務ヲ分掌ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第九條 長ハ經費豫算定額内ニ於テ囑託員又ハ僱員ヲ置クコトヲ得

第十條 長 事務官、技師ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、技師ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ屬、技手ノ俸給ハ同條屬及技手俸給ニ依ル但シ技師、技手ノ俸給ハ事務ノ繁簡ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ

第十一條 囑託員ノ報酬僱員ノ俸給ハ長之ヲ定ム

第十二條 此官制中別ニ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル

●第十節 内大臣、宮中顧問官、内大臣秘書官

●内大臣並ニ宮中顧問官及内大臣秘書官官制

明治十八年十二月
太政官達第六十八號

改正

●明治十九年二月號外達
●明治二十四年十二月達甲第四號

●明治二十五年十一月甲第六號
●明治三十年十月甲第八號

官 省 院 廳
府 縣

宮中ニ内大臣並宮中顧問官及内大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

内大臣 一人 親任

一 御璽圖璽ヲ尙藏ス

二 常侍輔弼ス

宮中顧問官 十五人以内 一等二等功勞アル者ヲ以テ之ニ任ス

帝室ノ典禮儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ意見ヲ具上ス

内大臣秘書官 一人又ハ二人 奏任

内大臣ニ專屬ス

屬 判任

●第十一節 文事祕書局

●文事祕書局官制 明治二十三年十二月
宮内省令第百二十三號

改正 ●明治二十四年十二月
達 甲 第 四 號 ●明治二十五年十一月
達 甲 第 六 號

宮中ニ文事祕書局ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

文事祕書局官制

第一條 文事祕書官長

一人 一等二等

旨ヲ奉シ文事ニ關スル内廷ノ文書ヲ管掌ス

第二條 文事祕書官

二人 二等以下

官長ノ指揮ヲ受ケ文書ヲ掌理ス

第三條 屬 判任

●第十二節 皇室制度調査局

●皇室制度調査局設置

明治三十二年八月二十五日
官報

皇室制度調査局職務章程 (明治三十二年八月三十一日官報)

- 第一條 皇室制度調査局ニ總裁副總裁各一人御用掛若干人主事一人祕書二人書記若干人ヲ置ク
- 第二條 總裁ハ皇室制度ニ關スル事項ニ付キ旨ヲ奉シテ調査審議シ案ヲ具シテ奏上ス
- 第三條 總裁ハ事體重要ナルモノニ就キ時時秘密旨ヲ伺ヒ又ハ意見ヲ奏聞ス
- 第四條 副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 御用掛ハ高等官ヨリ兼務ス總裁ノ命ヲ承ケ調査事務ヲ分掌ス
- 第六條 主事ハ總裁ノ命ヲ承ケ局務ヲ管理ス
- 第七條 祕書ハ總裁ニ專屬シ文書ヲ管理ス
- 第八條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第九條 總裁ハ事項ヲ限リ職員外ノ者ニ其ノ起草審査ヲ囑託スルコトヲ得
- 第十條 皇室制度ニ關スル事項ノ調査立案及評議ハ凡テ機密ヲ嚴守スヘシ
- 第十一條 御用掛ハ本官相當ノ待遇ヲ受ケ主事祕書ハ奏任待遇書記ハ判任待遇トス

第十三節 皇族職員

皇族職員職制 明治二十三年一月
宮内省令第廿一號

皇族職員職制左ノ通相定ム

皇族職員職制

第一條 親王家

別當

輔弼ノ責ニ任シ家務會計ヲ總理シ家令以下ヲ監督ス

家令

別當ノ職務ヲ助ケ家務會計ヲ管理ス

家扶

家務會計ヲ掌理ス

家從

庶務ニ從事ス

第二條 諸王家

家令

輔弼ノ責ニ任シ家務會計ヲ管理シ家扶以下ヲ監督ス

家扶

家務會計ヲ掌理ス

家從

庶務ニ從事ス

第三條 宮内省官制第四十八條第四十九條第五十一條第五十二條第五十三條ハ本制ニモ亦適用ス

第十四節 皇族附武官

●皇族附陸軍武官官制 明治二十九年八月 勅令第二百八十一號

改正 明治三十三年三月 勅令第四十一號

朕皇族附陸軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
皇族附陸軍武官官制左ノ通定ム

皇族附陸軍武官官制

- 第一條 陸軍武官タル皇族ニハ皇族附陸軍武官ヲ附屬シ各兵科佐尉官ヲ以テ之ニ補ス
- 第二條 皇族附陸軍武官ハ其附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ行軍、觀兵、演習其他ノ軍務及祭儀禮典宴會等ニ隨從スルヲ任トス
- 第三條 皇族附陸軍武官ハ祭儀禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮内省ノ規定ヲ遵守スヘシ

●皇族附海軍武官官制

明治三十年十月
勅令第百六十一號

改正

●明治三十二年十一月
勅令第百四十號

朕皇族附海軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
皇族附海軍武官官制

第一條 海軍武官タル皇族ニハ皇族附海軍武官ヲ附屬シ海軍佐尉官ヲ以テ之レニ充ツ

第二條 皇族附海軍武官ハ其ノ附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ軍務祭儀禮典及宴會等ニ隨從スルヲ任トス

第三條 皇族附海軍武官ハ祭儀禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮内省ノ規定ヲ遵守スヘシ

第十五節 帝室博物館

帝室博物館官制

明治三十三年六月
宮内省達甲第三號

帝國博物館、帝國京都博物館、帝國奈良博物館ヲ東京帝室博物館、京都帝室博物館、奈良帝室博物館ト改稱シ帝室博物館官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ施行ノ期ハ本年七月一日トス

帝室博物館官制

第一條 東京帝室博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ置ク勅任トス宮内大臣ノ監督ヲ承ケ職員ヲ統督シ各帝室博物館ノ事務ヲ總理シ兼テ上野公園及動物園ノ事務ヲ管理ス

第二條 東京帝室博物館ニ主事一人ヲ置ク奏任トス總長ヲ輔ケ館務ヲ掌理ス

第三條 京都帝室博物館及奈良帝室博物館ニ館長各一人ヲ置ク奏任トス館務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第四條 各帝室博物館ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 奏任

京都帝室博物館及奈良帝室博物館ハ五等以下トス

部次長 判任三等以上

書記 判任

技手 判任

第五條 部長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス總長又ハ館長ノ命ヲ承

ケ列品部門ノ別ニ從ヒ部務ヲ分掌ス

第六條 部次長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス部長ヲ助ケ部務ヲ處

理ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承テ列品ノ調査監守ニ從事ス

第九條 館務ノ須要ニ依リ各帝室博物館ニ評議員及學藝委員ヲ置クコトヲ得

第十條 評議員ハ東京帝室博物館五人京都帝室博物館奈良帝室博物館各二人勅任又ハ奏任ノ待遇トス

總長又ハ館長ノ諮詢ニ對シ其ノ召集ニ應ジテ館務ニ參與ス

第十一條 學藝委員ハ東京帝室博物館七人京都帝室博物館五人奈良帝室博物館三人奏任待遇トス總長

又ハ館長ノ命ヲ承テ列品ノ鑑査解說又ハ編纂著譯ニ從事ス

第十二條 實際ノ須要アルトキハ各帝室博物館ニ屬託員ヲ置キ部長部次長ノ事務又ハ列品ノ鑑査解說

ヲ委嘱スルコトヲ得

第十三條 高等官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ部次長書記ノ俸給ハ同條屬俸給、

技手ハ技手俸給ニ依ル

第十四條 評議員學藝委員及屬託員ノ報酬ハ經費定額内ニ於テ總長適宜之ヲ定ム

第十五條 本官制中別ニ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル

第十六節 學習院

●學習院官制

明治三十一年八月
宮内省通甲第五號

改正

●明治三十二年六月通
甲第二號

學習院官制左ノ通改定ス

學習院官制

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

學習院長

一人

勅任

宮内大臣ノ監督ヲ受テ學習院教育ノ主旨及學制ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ統督シ學生育成ノ責

學習院幹事

二人

奏任

長ノ命ヲ承テ庶務會計ヲ掌理ス

學習院書記

一人

判任

長及幹事ノ指揮ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

學習院教授

一人

勅任又ハ奏任

長ノ命ヲ承テ教育ニ從事ス

學習院助教

一人

判任

教授ノ職務ヲ補助ス

學習院寮長

一人

奏任

教授ノ職務ヲ補助ス

一人

無任

長ノ命ヲ承ケ各學寮ヲ管理シ且其寮ニ屬スル學生ノ諮詢ニ從事ス

學習院副寮長 奏任又ハ判任授又ハ助教授又ハ助教

寮長ノ職務ヲ補助ス

學習院學生監 一人 奏任

長ノ命ヲ承ケ學生ノ風儀ヲ監督シ且武課ノ教習ニ從事シ學生ヲシテ軍隊ノ紀律ニ慣熟セシムルコトヲ掌ル

學習院學生監副官 一人 奏任

學生監ノ職務ヲ補助ス

學習院學生監部員 判任

學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

學習院醫官 一人 奏任

長ノ命ヲ承ケ醫藥衛生ニ從事ス

學習院醫官助手 判任

醫官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

第二條 教授上必要ナルトキ又ハ判任官闕員アルトキハ長適當ナル者ヲ選ヒテ囑託員又ハ僱員ヲ置クコトヲ得

第三條 教育上ノ規律及職員分掌服務規程ハ長之ヲ定メ宮内大臣ニ申牒スヘシ

第四條 長、幹事、勅任教授、學生監、學生監副官、醫官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、奏任

教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ書記、學生監部員、醫官助手ノ俸給ハ同條屬俸給、助教授ノ俸給ハ

技手俸給ニ依ル

第五條 寮長及副寮長ニハ本官俸給ノ半額以内ヲ手當トシテ給ス

第六條 教授助教授ニハ授業時間ノ多少學科ノ性質等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアル

第七條 囑託員ノ報酬僱員ノ俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム

第八條 此官制中別ニ規定ナキモノハ總テ宮内省官制ニ依ル

第十七節 華族女學校

●華族女學校職員及官等俸給

明治十九年二月
宮内省達第二號

改正

●明治二十年十二月達第六號
●明治二十二年十二月達第二十三號
●明治二十三年六月達第十一號
●明治二十四年十二月達甲第四號
●明治二十五年十一月達甲第六號
●明治三十二年六月達甲第三號

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ
第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

長

學監

幹事

教授

助教

書記

第二條 長一人勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス

第三條 學監一人奏任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス

第四條 幹事二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第八條 長、學監、幹事ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ

書記ノ俸給ハ同條屬俸給、助教ノ俸給ハ技手俸給ニ依ル
 第九條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアル
 第十條 教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ選テ嘱托員僱員ヲ置クコトヲ得
 其報酬及俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム
 第十一條 宮内省官制第四十八條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制ニモ亦適用ス
 但判任官ノ陞叙年限ハ二十三年六月宮内省達第六號ニ依ル

●第十八節 定員外宮内官

●外國政府ノ招聘ニ應スル宮内官ヲ定員外トナスノ件

明治三十六年五月
 宮内省達甲第二號

宮内官ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ノ招聘ニ應シタル者バ之ヲ定員外トナスコトヲ得但シ招聘ニ應シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

第四章
各省官制通則

現行法規集第一篇第四章目錄

○第一篇 官制處務

◎第四章 各省官制通則

●第一節 事務整理綱領

●各省事務整理ノ綱領……………一

●第二節 通則

●各省官制通則……………二

●第三節 外國政府ノ招聘ニ應スル官吏

●外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ關スル件……………三

○第一篇 官制

處務
服務

◎第一章 各省官制通則

●第一節 事務整理綱領

●各省事務整理ノ綱領

明治十八年十
二月二十六日

本月二十三日ノ聖詔ヲ奉體シ左ニ各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ舉ケ以テ將來ノ標準ヲ示ス各省大臣此
範圍内ニ於テ便宜斟酌シ案ヲ具ヘテ閣議ニ提出スヘシ

一 官守ヲ明ニスルコト

我カ官制ハ草創ノ餘未ダ限ルニ定員ノ制ヲ以テセズ濫弊從テ生シ官愈々多シテ務愈々壅カルコトヲ
免カレヌ十年ニ一タヒ官制ヲ改メ敎部省ヲ廢シ内務省ニ併セ各省奏判官ヲ減シテ其過半數ヲ罷メシリ
然ルニ當時定員ノ制ヲ設ケテ以テ將來ヲ防範セカリシニ因リ其後又更ニ漸クニ増員シ從テ減シ從テ加
ハリ以テ其始メニ倍スルニ至レリ今ニ於テ各省大臣宜シテ詔意ヲ奉體シ左ノ節目ニ依リ各省内局課ノ
設置ヲ定メ官吏ノ員數ヲ限リ節減淘汰ノ意見ヲ具ヘテ閣議ニ付シ各省ヲシテ略均一ナラシメ成案トナ
シ然ル後上奏シテ裁テ請フヘシ

一 各省次官一人ニ限ル

一 各省書記官ハ其省ノ須要ニ從ヒ定員ヲ限ル

一 省中各局ニ屬セサルノ分限ハ其省書記官ノ内ヲ以テ課長ニ充ツ

一 省務ノ枝分シテ別ニ一部ヲ爲シ經常ニ繼續スヘキ者ヲ局トス局長一人又ハ局長局次長ヲ置ク

- 一本省又ハ局中ノ事務ヲ分テ課ヲ設ケルハ各省ノ便宜ニ從フ
- 一局長及局長ハ奏任トス局中ノ課長ハ判任ヲ以テ之ニ充ツ
- 一局ノ等級ヲ分テ一等局二等局トナスハ事務ノ繁簡輕重ニ從ヒ各省大臣ノ具狀スル所ニ依リ裁定ヲ經ヘシ
- 一局課ノ設置一定ノ後省務ノ變更ニ依リ新ニ廢置ヲ要シ又ハ新ニ奏任官ノ定員ヲ増サント要スルトキハ理由ヲ具ヘテ閣議ノ後裁可ヲ請フヘシ
- 一各省ノ須要スル所ニ從ヒ定員ヲ限リ參事官ヲ置キ審議立案ノ職ニ供フルコトヲ得
- 一以上定員ノ外出仕又ハ御用掛ノ名義ヲ以テ補任スルコトヲ得ス
- 一各省大臣ハ局課ノ規程ヲ定メ局長課長ヲシテ責任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス
- 一前項ノ規程ハ可成各省均一ヲ要スル爲ニ閣議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
- 一八等官以下ハ各省ノ須要ニ從ヒ定額俸給項内ニ於テ各省大臣之ヲ判任スヘシ
- 一各省大臣ハ臨時事務ノ爲ニ判任常員ノ外ニ定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ得
- 一學術專科ニ係ル官制及警視收稅典獄ノ類ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 一特ニ一事件ヲ審査セシムル爲ニ委員ヲ設ク又ハ臨時ノ事務ヲ擔當セシムル爲ニ掛ヲ設ク省中定員ノ人ヲ使用スルハ各省大臣ノ權内トス
- 一各省ニ試験ヲ經ケル試補ヲ置キ省局ノ事務ヲ練習セシメ闕官アルヲ待テ補任ス各省試補ノ數ハ閣議ノ定ムル所ニ依ル
- 一試補ニ關スル規則ハ退テ裁定ヲ經公布スヘシ
- 一官吏一省内ニ於テ二ツノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得ルモノ二省ニ涉リテ兼スルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サルノ要用ニ依リテ兼官セシムルモ兼官ハ一年ヲ過ルコトヲ得ス

一他省ニ涉リテ兼官スルモノハ兼ヌル所ノ官俸三分ノ一ヲ増給スヘシ但武官ニシテ文官ニ任スルハ此例外ナリ

以上ハ官制ノ綱領トス各省案成ルノ後裁可ヲ經一定公布スル所アルヘシ
 奏任以上ハ官ニ職權アリテ各機關ノ一部ニ當ル者ナリ屬官ハ使用ヲ受ル者ナリ從前官制ノ區別明ナラズシテ庶務外ノ年ヲ經ケル者ハ進テ屬官ニ昇リ屬官ノ年資ヲ經ケル者ハ進テ奏任ニ列ス是レ試験法ナキノ致ス所ニ由ル今既ニ試験法ヲ定ムルトキハ凡ソ奏任ノ官ハ必ス高等試験ヲ經ル者ニ限リ屬官ノ年勞ヲ積ム者ハ漸クニ其俸給ヲ増シ奏任初等官即現七等官ト相匹等セシムルコトヲ得ヘシ其陞テ奏任トナスニ至テハ必異常功績アリテ大臣ヨリ狀ヲ具ヘ奏請シ又ハ高等試験ヲ經ル者ニ限ルヘシ此皆冗濫ヲ防クノ道ナリ

二 選拔ノ事

選拔ノ法未ダ定マラスシテ人各知ル所ヲ舉ク而シテ成學ノ士或ハ其進ム所ヲ失フ此レ皆制度ノ未ダ備ラサル者ニシテ勢ノ免レサル所ナリ今官制一タヒ定マリ官仕限アルニ及テ選拔ノ法仍設ケサルトキハ情弊ノ至ル處其失ニ堪ヘス而シテ行政部局其人ヲ得ルニ由ナカラントス

選拔ノ法ヲ行フニハ事創始ニ屬スルヲ以テ其規則節目ノ詳ナルハ委員ヲシテ審査セシメ閣議ヲ經ルノ後成案トナシ裁可ヲ請フヘシ今其大要ヲ擧クテ以テ標準ヲ示ス

- 第一 仕進ハ試験ニ由ラシムル事
- 第二 試験ニ學術試験ト普通試験ヲ分ツ事

- 第三 學術試験ニ初等試験ト高等試験ヲ分ツ事
 - 第四 學術試験普通試験ノ外ニ專科試験ヲ設ケル事 會計官吏ハ記簿法ヲ試験シ外務官吏ハ外國語ヲ試験シ其他技術ヲ試験スルノ類
 - 第五 試験人ハ定リタル試験科目ノ外ニ隨意ニ其學ヲ所ノ専門學ノ試験ヲ受ケルコトヲ得セシメ試験委員ニ於テ他ノ科目ト斟酌シテ之ヲ採取シ其優等ナル者ハ別ニ優等證ヲ付シ以テ才ヲ試ミルコト遺漏ナカラシムル事
 - 第六 内閣中ニ試験委員ヲ設ケル事
 - 第七 各省ニ許可ヲ得テ設ケル專科試験法ハ試験委員ト各省大臣トノ間ニ協議制定セシムル事
 - 第八 試験ニ依リ進ムヘキ官吏ノ出身ハ年齢性行健全才能ノ四件ヲ合セテ共ニ試験委員ノ審査ヲ經然ル後選用スル事
 - 第九 學術試験合格者ハ一定ノ期限内試験補トナシ事務ヲ見習ハシメ又ハ候補證ニ登記スル事
 - 第十 現勤判任官ヨリ奏任ニ昇ル者ハ少シトモ初等學術試験ヲ經セシムル事
 - 第十一 判任ノ閑官又ハ需要アルトキハ普通試験ヲ行ヒ選用スル事
 - 第十二 現勤等外及雇ヨリ等内官又ハ本官ニ任スル者其判任官ハ皆普通試験ヲ經セシムル事 但特ニ一試アル者ハ選
 - 第十三 現勤判任及准奏判任官御用掛雇等外官ニシテ學術試験ヲ請フ者ハ其情願ニ任スル事
 - 第十四 試験委員ノ紀律ヲ嚴ニシ其公正ヲ保ツシムル事
 - 第十五 地方ノ屬官ヲ試験スルハ別段ノ方法ニ依ル事
- 右ハ其概略ノ目的ヲ定ムル者ニシテ此レヲ實行スルニ至テハ更ニ委員ヲ命シ精確ノ審査ヲ經セシメン
- トス
- 三 繁文ヲ省ク事

- 維新ノ後舊ヲ變シ新ニ就クノ際下司ノ上司ニ稟請シ命ヲ得テ始メテ施行スルヲ例トシ細大多端往復織ルカ如ク相因テ一ノ慣習ヲ成シ一令出ルコトニ疑問百出經伺ノ文簿積テ堆テ爲シ往往半年或ハ一年ニシテ始メテ定マル此レ從前各省及太政官ノ事務繁劇官吏冗多ナル所以ニシテ始メハ已ムヲ得サルノ勢ニ出テ終リニ因習ノ弊ニ堪ヘサル者ナリ文書繁多ノ弊ハ
- 第一 事務ヲ掩滞シテ疏通便捷ナラサシメ公私ノ障害ヲリ
 - 第二 官吏ヲ冗多ナラシム
 - 第三 一部ヲ擔任スルノ官僚ヲシテ文書ニ倚賴シテ責任ノ意ヲ輕カラシム今此弊ヲ除カントセハ左ノ方法ニ依ルヘシ
- 第一 凡ソ布告ノ法律ハ疑問ナカラシムル爲ニ其說明ヲ要スル者ハ可成說明書ヲ附シ各官廳ニ送スル事
- 第二 府縣長官及其他一局部ノ長タル者ハ法律命令ヲ施行スルニ付テ其明文アル者ニ付キ經伺シテ指令ヲ請フコトヲ得ス其明文ナキ者モ實際ノ事務ヲ延滞セサラシムル爲メニハ法律ノ精神ニ由リ處分施行スルヲ以テ當然トナズ事
- 其他公文ノ停滯シテ或ハ歲月ヲ經過シ緩慢ニシテ敏活ナラサルハ施政ノ大弊ニシテ公私ノ病患此ヨリ大ナルハナシ今此ヲ救フノ要領ハ左ノ數點ニ外ナラサルヘシ
- 第一 文書受付往復ノ程限ヲ設ケ事ノ輕重緩急ニ從ヒ相當ノ期日ヲ定メ稽滯ヲ以テ過失トシ主任ノ官吏其責ニ任セシムル事
 - 第二 事務ノ各局課ニ關涉スル者ハ各局課ノ間或ハ會議法ヲ設ケ或ハ主任官互ニ面議ヲ行ヒ議決ノ即時ニ捺印シ從前ノ回覽法ニ換ヘ異議附箋ノ煩ヲ除ク事
 - 第三 文書ニ記録ノ要用ト不要トヲ分テ其不要ナル者ハ件名日時ヲ日記ニ登錄スルニ止メ原文ノ謄寫ヲナササル事

第四 各局長ハ每週一次又ハ二次其局ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滞ヲ檢明シ各省次官ハ毎月一次又ハ二次其省ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滞ヲ檢明スルノ類ノ方法ヲ行フ事

第五 各局長以下ハ大臣又ハ次官ノ命ナクシテ定期ノ外文書ヲ留置シノ權ナキ事

以上ハ其大概ヲ略説スルニ止マル者ニシテ其實施ノ順序節目ニ至テハ固ヨリ各省ノ便宜ニ屬シ各省大臣其規程ヲ設クルノ權内ニ在ル者ナリ但シ此事各省ノ整理ニ關シ可成均一ヲ要スルヲ以テ茲ニ之ヲ提擧シテ以テ標準ヲ示ス

四 冗費ヲ節スル事

凡ソ行政官務整理嚴密ナルノ國ハ其經費必節省ナラサルハナシ蓋富強ノ道ハ多費ニ在ラスシテ施ス處其實ヲ務メ緩急其要ヲ得テ以テ成效ヲ永久ニ期スルニ在リ維新以來歲出ノ歲ヲ逐テ増加スルハ内外政務ノ多端ナル實ニ已ムコトヲ得サルニ由ルト雖トモ明治六年ノ會計表ニ據リ此レヲ昨十七年度ノ歲出ト比較スルニ幾ント四分ノ一ヲ増加シタリ又俸給一項ヲ以テ之ヲ言フニ明治六年ノ概數ニ據リ之ヲ十七年度ニ比較スルニ即チ十分ノ六ヲ増加シ又九年十年度ノ概數ニ據リ之ヲ十六七年度ニ比較スルニ即チ三分ノ一ヲ増加シタリ實務ノ舉カル處成果ノ得ル處未タ經費ノ遞増ト相比例スルニ至ラス今宜シク務メテ省減ヲ行ヒ各省ノ定額ハ内閣ニ於テ事物ノ緩急ヲ料リ之ヲ總判書定シ超ニヘカラサルノ限ヲ爲シ各省大臣ハ全局ノ平衡ヲ顧ミ以テ各々其省ノ費用ヲ節省スヘシ

奏任以上ハ官ニ定員アリ判任以下ハ各省大臣定額係給項内ニ於テ便宜ニ使用スルコトヲ得今變更ノ際一ツヒ節減ヲ行ヒ更ニ永久ニ繼續シテ濫弊ヲ防制スル爲ニ各省院府縣廳ハ毎月官吏ノ員數並俸給ヲ統計シ翌月十日迄ニ之ヲ検査院ニ報告セシメ検査院ニ於テ其制ヲ踰ス限ニ過ル者ヲ檢出シタルトキハ内閣總理大臣ニ上申シテ處分ヲ請ハシムヘシ

検査院ハ單ニ會計出入ノ検査ニ止マルノミナラス需費ノ成績ニ就テ事業ノ得失ヲ察シ各廳内部ノ處務

ニ注目シ務メテ儉省確實ノ方法ヲ計畫シテ内閣ニ提出シ以テ行政各部ノ注意ヲ促スコトヲ得セシムヘシ各省ノ事務互ニ相重複スル者ハ開議ヲ經テ其一ヲ減省スヘシ

五 規律ヲ嚴ニスル事

官吏ノ品格ハ實ニ政府ノ威信ニ係リ官吏ノ忠順慎密勤勉清廉ハ政務ノ得失ニ於テ密接ノ關聯ヲ相爲ス此レ宜シク其規律ヲ嚴ニシ秩序ヲ正シシ一ハ以テ官務ヲ整理シ一ハ以テ忠順廉潔ノ風ヲ維持セサルヘカラス九年ニ官吏懲戒例ヲ設ケテ而シテ監督審理ノ方法備ラヌ未タ具文ノ法タル事ヲ免レヌ將來懲戒裁判ヲ設ケ懲戒及罷免ノ規則ヲ定メ以テ官紀ヲ肅シ且以テ官吏ノ位置面目ヲ保護スルコト實ニ止ムヘカラサルノ必要アリ但シ此事他ノ官制ノ細目ト相關係スルヲ以テ現時未タ舉行シ易カラサル者アリ抑モ官吏ノ規律ヲ張リ其品格ヲ保ツハ以テ一日モ緩慢ニ付スヘカラス各省大臣ニ在リテ宜シク留意ヲ來體シ各其權内ニ於テ振勵監督シ凡ソ官吏忠順誠實ノ大義ニ乖キ法律ヲ恪守セズ機事ニ慎密ナラス務ヲ執テ勤勉ナラサル者ハ其情狀ニ從ヒ之ヲ告戒譴責シ或ハ之ヲ懲罰スヘク贈遺ノ禁ハ細大ニ及ホシ職務廢廢ノ戒メハ其有意無心ヲ問ハス老朽務メニ堪ヘサル者ハ其官ヲ退ガシムヘク務メテ核實嚴明ニシテ効力アルコトヲ要スヘシ其規則ニ涉ル者ハ更ニ裁テ經テ制定スル處アルヘシ

●第二節 通則

●各省官制通則

明治二十六年十月
勅令第百二十二號

改正

●明治二十九年十月
勅令第百三十七號
●明治三十年四月
勅令第百八十四號

●明治三十一年十月
勅令第百五十七號
●明治三十二年六月
勅令第百五十四號

●明治三十三年四月
勅令第百六十一號
●明治三十五年三月
勅令第百六十號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ各省ニ適用ス

第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩者以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣

議ニ提出スヘシ

第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若シハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道

廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ

其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ

之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス

但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス

第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ彼位彼勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ彼位彼勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコト

ヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時總務長官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ屬スル事項

二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

陸軍省海軍省ニ於テハ本條第二項第二ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十一條 各省ニ總務局ヲ置ク

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

二 統計報告ノ調製ニ關スル事項

三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

四 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項

五 會計ノ監査ニ關スル事項

六 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

七 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第四乃至第六ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官

官房長

局長

參事官

祕書官

書記官

屬

第十五條 各省總務長官ハ一人勅任トス

第十六條 總務長官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督シ及總務局ノ事務ヲ掌理シ及局中

各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十七條 各省官房長ハ一人勅任トス

第十八條 官房長ハ機務ヲ掌理シ及大臣官房ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承テ審議立案ヲ掌ル但シ其ノ中一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

第二十條 參事官ハ其省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若ハ臨時命ヲ承テ其ノ事務ヲ助ク

第二十一條 祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承テ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承テ各局課ノ事務ヲ助ク

第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承テ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條 各省專任祕書官ハ一人トス但シ外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得

各省專任參事官專任書記官ハ併セテ九人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ外務省内務省大藏省及逓信省ニ於テハ十四人以下ヲ置クコトヲ得

第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ク課長ハ命ヲ上官ニ承テ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承テ庶務ニ從事ス

第二十六條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條 本則ニ掲グルモノノ外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

附則

第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第三節 外國政府ノ招聘ニ應スル官吏

●外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ關スル件

明治三十三年一月 勅令第九號

朕外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏許可ヲ受テ外國政府ノ招聘ニ應シタル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得但シ招聘ニ應シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

第五章

外務省所管

現行法規集第一篇第五章目錄

○第一篇 官制處務服務

◎第五章 外務省所管

●第一節 外務省

●外務省官制

●外務省分課規程

◎第二節 外交官及領事官試驗委員

●外交官及領事官試驗委員官制

◎第三節 外交官領事官及貿易事務官

●外交官及領事官官制

●領事官ノ職務ニ關スル件

●領事官職務規則

●戰時特設ノ職務ニ從事スル待命外交官及待命領事官ノ定員

外ト爲スノ件

六

五

四

三

二

一

- 外交官領事官及貿易事務官更代ノ際臨時増員ノ件……………七
- 第四節 在外公館及領事館……………八
- 在外公館職員定員令……………九
- 在外帝國領事館管轄區域……………九
- 第五節 專管居留地……………一〇
- 日本專管居留地經營事務所官制……………一〇
- 在外國帝國專管居留地經營事務所監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件……………一一

○第一編 官制 服務

◎第一章 外務省所管

●第一節 外務省

●外務省官制 明治三十一年十月勅令第二百五十八號

改正 明治三十三年三月勅令第五十九號
明治三十三年五月勅令第九十號
明治三十五年三月勅令第六十一號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外務省官制

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ指揮監督ス
- 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲グルモノノ外國ニ駐在スル各國外交官領事官、外國人彼勳、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 外務省專任參事官ハ三人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官ハ八人ヲ以テ定員トス
- 第四條 外務省ニ左ノ二局ヲ置ク

政務局

第五條 政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク奏任トス文書翻譯ニ從事ス

第八條 外務省屬ハ五十人ヲ以テ定員トス

第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辯ニ從事ス

第十條 外務省ニ技手三人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信及電報事務ニ從事ス

附則
第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

● 外務省分課規程 明治三十三年五月二十一日官報

外務省ニ於テ分課規程ヲ左ノ通定メ昨二十日ヨリ施行セリ

外務省分課規程

第一條 外務大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 特ニ命ヲ受ケタル機密事項

二 大臣親展書ノ接受

第二條 總務局ニ人事課、文書課、記録課、會計課、翻譯課、電信課及取調課ヲ置ク

第三條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 所轄官吏ノ進退身分ニ關スル事項

二 信任狀解任狀委任狀及認可狀ニ關スル事項

三 外國人ノ彼勳ニ關スル事項

四 帝國ニ駐在スル各國外交官及其他外國人ノ謁見及待遇ニ關スル事項

五 所轄官吏ノ謁見ニ關スル事項

六 無稅通關ニ關スル事項

七 儀式ニ關スル事項

八 在帝國外國公使館雇人鑑札ニ關スル事項

九 外務省留學生ニ關スル事項

十 外交官及領事館試驗及外務書記生試驗ニ關スル事項

第四條 文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 文書ノ接受配付及發送ニ關スル事項

二 統計報告及官報掲載ニ關スル事項
三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

第五條 記録課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 條約書批准書圖書及外交文書ノ保管
二 諸文書ノ編纂保存及刊行
三 圖書ノ保存及刊行
四 外交要報ノ編纂及刊行

第六條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 本省及在外公館ノ經費及諸收入ノ豫算決算ニ關スル事項
二 本省及在外公館ノ會計監査及金錢出納ニ關スル事項
三 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
四 本省所屬出納官吏ノ身元保證金ニ關スル事項
五 本省備人ノ進退及監督ニ關スル事項
六 省中取締ニ關スル事項

第七條 在外帝國專管居留地特別會計ニ關スル事項
第七條 翻譯課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 外國文書ノ邦語翻譯
二 邦語文書ノ外國語翻譯

第八條 電信課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 暗號電信ノ起草及解釋

二 諸電信ノ接受及發送
第九條 取調課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 各局課所掌ノ事務中内外ノ法律及國際法ニ關スル取調事項
二 前項ニ掲ケルモノノ外特ニ命ヲ受ケタル取調事項

第十條 政務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 外交政務ニ關スル事項
二 各般ノ條約ニ關スル事項
三 外交官ノ職務及權限ニ關スル事項
四 犯罪人引渡ニ關スル事項
五 在帝國外國人及外國艦船ニ關スル事項
六 本局主管ノ事件ニ屬スル萬國會議ニ關スル事項

第十一條 通商局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 通商航海ニ關スル事項
二 通商航海條約領事職務條約及移民條約ニ關スル事項
三 領事官ノ職務及權限ニ關スル事項
四 在外帝國臣民及居留地ニ關スル事項
五 領事官ノ管轄區域ニ關スル事項
六 萬國博覽會共進會及本局主管ノ事件ニ屬スル萬國會議ニ關スル事項
七 移民ニ關スル事項
八 旅券ニ關スル事項

第一編 官制 第五章 外務省所管 第一節 外務省

●第二節 外交官及領事官試驗委員

●外交官及領事官試驗委員官制 明治二十六年十月
勅令第百二十六號

朕外交官及領事官試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官試驗委員官制

第一條 外交官及領事官試驗ヲ施行スル爲ニ外交官及領事官試驗委員ヲ置キ外務大臣ノ管轄ニ屬セシ

第二條 外交官及領事官試驗委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

- 委員長
- 外務總務長官
- 委員
- 外務省政務局長
- 外務省通商局長
- 文官高等試驗委員二名
- 帝國大學教授二名

外務總務長官、外務省政務局長又ハ外務省通商局長ニ關員又ハ事故アルトキハ臨時他ノ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 前條委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時試驗委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 外交官及領事官試驗委員ハ職務上當然委員長又ハ委員タル者ヲ除クノ外外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス臨時委員亦同シ

第五條 試驗事務ニ關シ庶務ニ従事セシムル爲メニ書記ヲ置キ外務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 外交官及領事官試驗委員並臨時試驗委員ニハ外務省官吏ヲ除クノ外年額百圓以内ノ手當金ヲ

給スルコトヲ得

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●第三節 外交官、領事官及貿易事務官

●外交官及領事官官制

明治三十二年六月
勅令第二百八十號

改正

●明治三十三年五月
勅令第二百十九號

朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官官制

第一條 外交官ハ特命全權公使、辨理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官及
外交官補トス

第二條 特命全權公使及辨理公使ハ勅任トシ公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官
及外交官補ハ奏任トス

第三條 領事官ハ總領事、領事、副領事及領事官補トス

第四條 總領事、領事、副領事及領事官補ハ奏任トス

第五條 外交官ヲ置カサル地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得

外交事務官ハ領事官ヲシテ之ヲ兼テシム

第六條 領事官ヲ置カサル地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事若ハ名譽副領事ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任トシ名譽領事及名譽副領事ハ奏任待遇トス

第七條 公使館、領事館及貿易事務館ニ外務書記生ヲ置ク

外務書記生ハ判任トス

第八條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館ニ公使館一等通譯官、公使館

二等通譯官ヲ置クコトヲ得

公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ奏任トス

第九條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務館ニ外務通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス

第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者及外務省官吏ニシテ外交官又ハ領事官ニ轉任シ未ク任所ヲ命セサル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他本令及公使館領事館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

待命ハ滿五箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス

待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス

附則

第十一條 明治二十八年勅令第八十二號及同年勅令第八十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行ノ際一等領事又ハ二等領事タル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ領事ニ任セラレタルモノトス

●領事官ノ職務ニ關スル件

明治三十三年三月 法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條 條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條 領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件並非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條 前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ抵觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條 領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十條 領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條 前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十三條 領事官ハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ
裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ
前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條 法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條 通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第十三條及第十四條ニ掲ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條 領事館ノ設置ナキ地ニ限リ命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條 本法其ノ他ノ法律中單ニ領事又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條 本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●領事官職務規則

明治三十三年四月 勅令第三百五十三號 (明治三十三年九月外務省令第四號ニテ)
明治三十四年一月一日ヨリ施行セラル

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ領事官職務規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

領事官職務規則

- 第一條 領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ノ監督ヲ受クヘシ
- 外務大臣カ特定ノ事項ニ關シテ領事官ヲ指揮スルコトヲ其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ニ命シタルトキハ領事官ハ該事項ニ關シテ帝國公使ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二條 領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ維持増進スヘシ
- 第三條 領事官ハ駐在國カ條約又ハ國際法ニ依リ帝國ニ對シテ負フ所ノ義務ノ遵守ヲ視察シ日本臣民ノ利益又ハ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ害セラレタル場合ニ於テハ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 第四條 領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル帝國軍艦ニ對シテ必要ナル幫助ヲ爲スヘシ
- 第五條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民ノ救助又ハ取締ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 領事官ハ救助又ハ取締ノ爲必要ナルトキハ日本臣民ノ送還ヲ日本船舶ノ船長ニ命スルコトヲ得
- 第六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ於テ日本臣民ノ財産又ハ遺産ノ保護管理ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 第七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民ノ名簿ヲ備ヘ居住及身分ニ關スル届出ヲ受理シ届出又ハ其ノ他ノ事實ニ依リテ確知シタル日本臣民ノ居住及身分ニ關スル事項ヲ該名簿ニ登錄スヘシ
- 第八條 領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル日本船舶及其ノ船員ニ對シテ必要ナル保護及取締ヲ爲スヘシ
- 第九條 領事官ハ帝國軍艦其ノ他日本船舶ノ乗組員カ脱船シタルトキハ艦長又ハ船長ノ請求ニ因リ脱船者ヲ復役セシムル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第十條 領事官ハ其ノ駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ真正ヲ證明スルコトヲ得
第十一條 領事官ハ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ其ノ職務上取扱フヘキ事項及職務ヲ行フ際知リ得タル事實ノ認證ヲ爲スコトヲ得

第十二條 領事官ハ日本臣民ニ旅券ヲ付與シ又ハ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得
領事官ハ日本ニ旅行セムトスル外國人ノ申請ニ因リ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得

第十三條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ於テ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ日本臣民又ハ日本ニ在ル土地ニ關スル法律行為ニ付公證ヲ爲スコトヲ得

第十四條 領事官ハ日本臣民相互ノ間又ハ日本臣民及外國人ノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ和解ヲ爲サシメ又ハ仲裁ヲ爲スコトヲ得

第十五條 條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ其ノ所管事務ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

領事官ノ發スル命令ニハ十圓以内ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
領事官ノ發スル命令ノ公布ニ關スル規程ハ領事官之ヲ定ム

第十六條 外務大臣ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認めルトキハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

領事官ノ駐在國ニ在ル帝國公使ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認めルトキハ其ノ施行停止ヲ命スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ外務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ施行停止ハ三箇月ヲ經過スルトキハ其ノ效ヲ失フ

第十七條 領事官ハ其ノ職務上必要アルトキハ帝國軍艦ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 領事官ハ其ノ職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 領事官ハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ得タル場合ノ外帝國ノ他ノ官廳又ハ公署ト直接通信ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程ハ外務大臣之ヲ定ム

第二十一條 名譽領事及貿易事務官ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ本令其ノ他領事官ノ職務ニ關スル法令及條約ノ規定ニ準依シテ其ノ職務ヲ行フ

第二十二條 本令ノ施行期日ハ外務大臣之ヲ定ム

第二十三條 日本帝國領事規則及明治二十三年勅令第二百五十八號ハ之ヲ廢止ス

● 戰時特設ノ職務ニ従事スル待命外交官及

待命領事官ヲ定員外ト爲スノ件 明治二十七年十一月
勅令第百九十號

朕待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ従事スル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ従事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

●外交官領事官及貿易事務官更代ノ際臨時

増員ノ件

改正

●明治三十二年六月
勅令第二百八十四號

明治二十八年十月
勅令第五百十號

朕外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時増員スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
外交官領事官貿易事務官及外務書記生外務通譯生ヲ更代セシムルトキハ定員ノ外ニ臨時増員スルコト
ヲ得但増員ノ日ヨリ六箇月以内ニ定員ニ復スヘシ
臨時増員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

特命全權公使辦理公使代理公使ハ通シテ二人

公使館一等書記官公使館二等書記官公使館三等書記官ハ通シテ四人

總領事一等領事二等領事貿易事務官ハ通シテ五人

外務書記生外務通譯生ハ通シテ四人

● 第四節 在外公館及領事館

● 在外公館職員定員令

明治三十二年六月
勅令第二百八十一號

改正

● 明治三十三年五月 勅令第二百二十號
● 明治三十四年六月 勅令第二百二十四號
● 明治三十五年八月 勅令第九十八號

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館職員定員令

第一條 外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、外務書記生及外務通譯生ノ定員ハ左ノ如シ

特命全權公使、辦理公使ハ通シテ十六人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ三十人

總領事、領事、副領事、貿易事務官ハ通シテ三十七人

公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ七人

外交官補、領事官補ハ通シテ三十人

外務書記生、外務通譯生ハ通シテ百二十八人

外交官ニシテ領事官ヲ兼任シ及領事官ニシテ外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼官ハ定員ノ内ニ算入セ

ス

第二條 特命ノ外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ二十五人

トシ前條定員ノ内ニ算入セズ

附則

外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●在外帝國領事館管轄區域 明治三十三年十二月 外務省令第五號

改正 ●明治三十五年一月 省令第一號 ●明治三十五年五月 省令第三號

在外帝國領事館管轄區域左ノ通相定ム

在韓國釜山帝國領事館管轄區域

慶尙道東北部 金海、梁山、密陽、靈山、昌寧、玄風、仁同、善山、開寧、金山ヲ以テ西南部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

江原道南部 平昌、三陟ヲ以テ北部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス
在韓國元山帝國領事館管轄區域

咸鏡道

江原道東北部 境界ハ在京城及在釜山帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在韓國仁川帝國領事館管轄區域

京畿道西部 境界ハ在京城帝國領事館管區ノ部ニ載ス
黃海道南部 長淵、海州、白川、金川ヲ以テ北部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

忠清道西北部 境界ハ在京城及在木浦帝國領事館管區ノ部ニ載ス
在韓國京城帝國領事館管轄區域

京畿道東部 竹山、龍仁、果川、始興、揚川、高陽、坡州、長湍及開城ヲ以テ西部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

江原道西部 鐵原、金化、狼川、春川、洪川、原州ヲ以テ東部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

忠清道東部 木川、全義、燕岐、鎮岑ヲ以テ西部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス
在韓木浦帝國領事館管轄區域

全羅道

忠清道南部 保寧、藍浦、鴻山、定山、公州、魯城、連山ヲ以テ西北トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス
在韓國鎮南浦帝國領事館管轄區域

平安道

黃海道北部 境界ハ在仁川帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在韓國馬山帝國領事館管轄區域

慶尙道西南部 境界ハ在釜山帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在清國上海帝國總領事館管轄區域

江蘇省中松江府、太倉州、通州、鎮江府、淮安府、徐州府、海州、揚州府、江寧府、安徽省

浙江省中寧波府、臺州府、紹興府、温州府、處州府

在清國天津帝國總領事館管轄區域

直隸省、山西省

在清國廈門帝國領事館管轄區域

福建省中興化府、泉州府、永春州、汀州府、漳州府、龍巖州

廣東省中潮州府、嘉應州、惠州府

江西省中吉安府、南安府、贛州府、寧都州

在清國芝罘帝國領事館管轄區域

山東省

在清國牛莊帝國領事館管轄區域

盛京省、吉林省、黑龍江省

在清國漢口帝國領事館管轄區域

湖北省中漢陽府、武昌府、德安府、黃州府

河南省中彰德府、衛輝府、開封府、陳州府、許州、歸德府、南陽府、汝寧府、光州

江西省中九江府、南昌府、饒州府、廣信府、南康府、建昌府、撫州府、臨江府、瑞州府、袁州府

湖南省中岳州府、長沙府、寶慶府、衡州府、桂陽州、郴州、永州府

在清國蘇州帝國領事館管轄區域

江蘇省中蘇州府、常州府

在清國杭州帝國領事館管轄區域

浙江省中杭州府、嘉興府、湖州府、金華府、衢州府、嚴州府

在清國沙市帝國領事館管轄區域

湖北省中荊州府、荊門州、襄陽府、安陸府、施南府、宜昌府、鄖陽府

湖南省中澧州、常德府、永順府、辰州府、永綏廳、乾州廳、鳳凰廳、沅州府、晃州廳、靖州

在清國重慶帝國領事館管轄區域

河南省中懷慶府、河南府、陝州、汝州

在清國福州帝國領事館管轄區域

四川省、陝西省、甘肅省、貴州省、雲南省

福建省中福州府、延平府、建寧府、邵武府、福寧府

在香港帝國領事館管轄區域

兼轄 澳門政廳管轄地

兼轄 廣東省中廣州府、南雄州、韶州府、連州、肇慶府、羅定州、高州府、雷州府、廉州府、海南島

廣西省

在暹羅國盤谷帝國領事館管轄區域

暹羅國

在英領海峽殖民地新嘉坡帝國領事館管轄區域

新嘉坡島、彼南島、「プロビンス、オプ、マラッカ」

在英領印度孟買帝國領事館管轄區域

英領印度、錫蘭島

在濠洲シドニー帝國總領事館管轄區域

ニュー、サウス、ウエールズ州。タスマニア州。ニュー、ジラランド州。ヅキクトリア州

サウス、オーフ、トレリアア州中「サウス、オーストレリア、プロパー」

ウエスト、オーストレリア州中「グラスコイ、サウス、ウエスト、エーシラ、イースタン

フカージー島

但濠洲聯邦政府ニ關係スル事項ニ付テハ全濠洲ヲ管轄ス

兼轄 「モーツェル、カレドニー」

在濠洲シウンスヅキール帝國領事館管轄區域

クキーンスタン州

サウス、オーストレリア州中「ノーザン、テリトリー」

ウエスト、オーストレリア州中「キャンパレー、ノース、ウエスト」

英領 ニューギニア

兼轄 獨領ニューギニア、マリアナ群島(ジャム島ヲ除ク)カロリナス群島、バーラウ群島

在フサツピン群島マニラ帝國領事館管轄區域

フサツピン群島、マリアナ群島中「ジャム島」

在露國オアツサ帝國領事館管轄區域

歐羅巴露西亞

在薩哈噠島哥爾薩港帝國領事館管轄區域

薩哈噠島

在北米合衆國紐育帝國總領事館管轄區域

メイン、ニュー、ハンプシヤイア、ヴァルモン。マサチエツ。ロード、アイランド。コンチンチカッ
ト。ニュー、ヨーク。ニュー、ジャルシー。ペンシルヴァニア。デラウエア。メーリーランド。ヴァーヂ
ニア。ウエスト、ヴァージニア。ノース、カロライナ。サウス、カロライナ。ジョージア。フロリダ。ノ十
七州及「エストリント、オプ、コルムビア」

在北米合衆國桑港帝國領事館管轄區域

カリフォルニア。コロラド。ユータ。チヴァダ。ノ四州及ニュー、メキシコ。アリゾナ。ノ二テリトリー

在北米合衆國シヤトル帝國領事館管轄區域

モンタナ。ワイミング。アイダホ。ワシントン。オレゴン。及アラスカ。ノ六州

在北米合衆國シカゴ帝國領事館管轄區域

インデアナ。イリノイ。ミシガン。ウチンソン。ミチガン。イタワ。ミッソリー。ケンタッキー。ノ
ース。メコック。サウス。メコック。チブラスカ。カンザス。オハヨウ。テンネッシー。アラバマ。ミスシッピ
ー。アルカンザス。ルイジアナ。テキサス。ノ十九州及オクラホマ。インデアアンテリトリー。ノ二テリト
リー

在布哇ホノルル府帝國領事館管轄區域

サンドウイツチ那島

在英國倫敦帝國總領事館管轄區域

大統列頓國

在佛國里昂帝國領事館管轄區域

佛蘭西國

在白國アンジュルス帝國領事館管轄區域

白耳義國

在墨國墨西哥帝國總領事館管轄區域

墨西哥國

在伯國リオ、デ、ギヤチーロ帝國總領事館管轄區域

伯刺西爾國

在加奈陀モントリール帝國總領事館管轄區域

英領コロビヤ州及西北テリトリーヲ除キ其他ノ各州及各テリトリー但加奈陀殖民地政府ニ關係スル
事項ニ付テハ全英領加奈陀ヲ管轄ス

在加奈陀晚香坡帝國領事館管轄區域

英領コロンビヤ州及西北テリトリー

●第五節 專管居留地

●日本專管居留地經營事務所官制

明治三十三年三月
勅令第百十號

朕日本專管居留地經營事務所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本專管居留地經營事務所官制

第一條 日本專管居留地經營事務所ハ在外國帝國專管居留地ニ之ヲ設ケ外務大臣ノ管理ニ屬シ在外國帝國專管居留地經營ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 各日本專管居留地經營事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 奏任
- 技師 一人
- 技手 五人
- 書記 三人 判任

第三條 所長ハ所在地帝國領事ヲ以テ之ニ充ツ所中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條 技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ工務ヲ掌理ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第六條 書記ハ外務書記生及外務通譯生ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

● 在外國帝國專管居留地經營事務監督ノ爲

臨時職員ヲ置クノ件

明治三十三年三月
勅令第三百十三號

朕在外國帝國專管居留地經營事務監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
在外國帝國專管居留地經營事務ノ監督ヲ爲サシムル爲臨時外務省ニ日本專管居留地經營事務監督官三
人ヲ置キ外務省及大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第六章

內務省所管

現行法規集第一篇第六章目錄

○第一篇 官制處務

◎第六章 內務省所管

●第一節 內務省

●內務省官制……………一

●內務省分課規程……………二

●臨時建築職員ノ件……………三

●臨時檢疫職員ノ件……………四

●第二節 土木監督署

●土木監督署官制……………五

●土木監督署處務規程……………六

●河川道路港灣調査ニ關スル職員ノ件……………七

●內務省直轄臨時土木工事施行ニ關スル職員ノ件……………八

●第三節 衛生試驗所

● 衛生試驗所官制	九
● 衛生試驗所事務分課	一〇
◎ 第四節 血清藥院	
● 血清藥院官制	一一
● 血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件	一二
◎ 第五節 痘苗製造所	
● 痘苗製造所官制	一三
● 痘苗製造所ニ顧問ヲ置クノ件	一四
◎ 第六節 傳染病研究所	
● 傳染病研究所官制	一五
◎ 第七節 臨時檢疫	
● 臨時海港檢疫所官制	一六
● 臨時海港檢疫所開設	一七
◎ 第八節 臨時ニテハ豫防事務局	

● 臨時ニテハ豫防事務局官制	一八
◎ 第九節 日本藥局方調査會	
● 日本藥局方調査會官制	一九
◎ 第十節 中央衛生會	
● 中央衛生會官制	二〇
◎ 第十一節 古社寺保存會	
● 古社寺保存會規則	二一
◎ 第十二節 造神宮使廳	
● 造神宮使廳官制	二二
◎ 第十三節 神部署	
● 神部署官制	二三
◎ 第十四節 神宮司廳	
● 神宮司廳官制	二四

●神宮士長衛士副長衛士ニ關スル件	二五
●衛士長衛士副長衛士服務規則	二六
●第十五節 神社	
●官國幣社職制	二七
●官國幣主典及官掌定員等ニ關スル件	二八
●府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件	二九
●第十六節 警察監獄學校	
●警察監獄學校官制	三〇

○第一篇 官制 服務

◎第六章 內務省所管

●第一節 內務省

●內務省官制 明治三十一年十月 勅令第二百五十九號

改正 明治三十三年四月 勅令第三百六十三號
 明治三十三年四月 勅令第三百六十四號
 明治三十三年五月 勅令第三百六十五號
 明治三十三年五月 勅令第三百六十六號
 明治三十五年三月 勅令第三百六十七號
 明治三十六年三月 勅令第三百六十八號

朕內務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內務省官制

第一條 內務大臣ハ神社、地方行政、議員選舉、警察、土木、衛生、地理、宗教、出版、著作權、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ據クルモノノ外褒賞及臺灣ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 內務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク

- 神社局
- 警保局
- 衛生局
- 地方局
- 土木局
- 宗教局

第四條ノ二 神社局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 神宮、官國幣社、府縣鄉村社、招魂社其ノ他總テ神社ニ關スル事項
 二 神官及神職ニ關スル事項
 第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 議員選舉ニ關スル事項
 二 府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項
 三 郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項
 四 市町村會、公共組合會及市町村公共組合ノ經濟其ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項
 五 (削除)
 六 賑恤及救濟ニ關スル事項
 七 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、癡癲院及育兒院其ノ他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
 九 北海道ニ於ケル林野、官設鐵道及拓殖ニ關スル事項其ノ他北海道ニ關スル事項ニシテ他局ノ所
 掌ニ屬セザルモノ
 第六條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 行政警察ニ關スル事項
 二 高等警察ニ關スル事項
 三 圖書出版及著作權ニ關スル事項
 第七條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
 二 府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項

三 直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
 四 水面埋立ニ關スル事項
 五 土地收用ニ關スル事項
 第八條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 二 檢疫停船ニ關スル事項
 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
 第九條 宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他總テ宗教ニ關スル事項
 二 僧侶及教師ニ關スル事項
 第十條 (削除)
 第十一條 (削除)
 第十二條 內務省ニ專任技師五人ヲ置ク内一人ヲ勅任トス
 內務省ニ專任技師十三人ヲ置ク
 內務省屬ハ百六十七人ヲ以テ定員トス
 附 則
 第十三條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
 臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 内務省分課規程 明治三十一年十一月四日官報

改正
●明治三十三年四月二十七日官報
●明治三十三年五月二十三日官報
●明治三十六年四月二二日官報

内務省分課規程

大臣官房

- 一 機密ニ屬スル事項
- 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 一 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

總務局

文書課

- 一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
- 一 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 一 統計報告ノ調製ニ關スル事項
- 一 國籍ニ關スル事項
- 一 褒賞ニ關スル事項
- 一 各局課ノ主管ニ屬セサル事項

會計課

- 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 一 本省所管會計ノ監督ニ關スル事項

一本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
一省中取締及營繕ニ關スル事項

地理課

一本省所管ノ官有地ニ關スル事項
一東京市區改正ニ關スル事項

臺灣課

一臺灣ノ行政並經濟ニ關スル事項
一臺灣ノ行政並經濟ノ監督ニ關スル事項
一臺灣總督府提出ノ豫算調査ニ關スル事項

神社局

第一課

一神宮及官國幣社ニ關スル事項
一古社及什寶物保存ニ關スル事項
一神官及官國幣社神職ニ關スル事項

第二課

一府縣社其他諸社ニ關スル事項
一府縣社以下諸社神職ニ關スル事項

地方局

府縣課

一貴族院多額納稅者議員及衆議院議員選舉ニ關スル事項

一道府縣郡行政並經濟ニ關スル事項

一道府縣郡行政並經濟ノ監督ニ關スル事項

一賑恤救濟ニ關スル事項

一道府縣立以下ノ貧民盲啞院瀧瀨院育兒院及感化院等其ノ他慈善ノ用ニ供スル施設ニ關スル事項

一徵兵徵發ニ關スル事項

一北海道ノ拓殖移住獎勵ニ關スル事項

一北海道ノ林野及官設鐵道ニ關スル事項

市町村課

一市區町村行政並經濟ニ關スル事項

一水利組合ノ行政並經濟ニ關スル事項

一市區町村其ノ他公共團體ノ行政並經濟ノ監督ニ關スル事項

一東京市區改正ノ經濟ニ關スル事項

警保局

警務課

一行政警察ニ關スル事項

保安課

一高等警察ニ關スル事項

圖書課

一圖書出版及著作權ニ關スル事項

一新聞紙及雜誌檢閱ニ關スル事項

一 圖書保存ニ關スル事項
土木局

直轄工事課

- 一 本省直轄ノ土木工事及土工費ノ調査ニ關スル事項
- 一 土地收用ニ關スル事項

治水課

- 一 道府縣經營ノ河海工事其ノ他公共ノ河海工事ニ關スル事項
- 一 衛生工事ニ關スル事項
- 一 道府縣河海工費補助及衛生工費ノ補助ノ調査ニ關スル事項
- 一 水面埋立ニ關スル事項

道路課

- 一 道府縣經營ノ道路工事其ノ他公共ノ道路工事ニ關スル事項
- 一 道府縣道路工費補助ノ調査ニ關スル事項

製圖課

- 一 技術ニ屬スル圖書並統計ニ關スル事項
- 一 河川道路及港灣ニ係ル事業ノ臨時調査ニ關スル事項

臨時建築掛

一 明治二十六年勅令第百二十八號ニ依リ土木局ノ管掌ニ屬セラレタル臨時建築ノ事務
衛生局

保健課

- 一 飲料水水道下水ニ關スル事項
 - 一 河川及道路其ノ他ノ清潔方法ニ關スル事項
 - 一 勞働者及貧民衛生ニ關スル事項
 - 一 工場衛生ニ關スル事項
 - 一 劇場興行場其ノ他他課ニ屬セサル公衆衛生ニ關スル事項
 - 一 公園轉地療養所及鑛泉場ニ關スル事項
 - 一 飲食物繪具著色料及中毒ニ關スル事項
 - 一 賣藥ニ關スル事項
 - 一 衛生會ニ關スル事項
- 防疫課
- 一 傳染病及地方病ノ豫防種痘ニ關スル事項
 - 一 檢疫停船ニ關スル事項
 - 一 痘苗及血清ニ關スル事項
 - 一 傳染病及地方病ノ研究ニ關スル事項
- 醫務課
- 一 醫師產婆並治療ニ關スル事項
 - 一 藥劑師製藥者藥種商並藥品取扱ニ關スル事項
 - 一 日本藥局法ニ關スル事項
 - 一 地方病院ニ關スル事項
- 宗教局

第一課

一 教派宗派教會僧侶教師其他宗教ニ關スル事項

第二課

一 寺院佛堂ニ關スル事項

一 古寺及什寶物保存ニ關スル事項

● 臨時建築職員ノ件

明治二十六年十月
勅令第百二十八號

改正

● 明治三十一年十月
勅令第百六十三號

朕臨時建築職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局ニ屬セシム

技師 一人

技手 五人

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治三十一年十月十八日
勅令第二百六十八號
臨時檢疫職員ノ件
朕臨時檢疫職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
檢疫豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ衛生局ニ屬セシム
事務官 專任三人 奏任
技手 專任二人
附則
本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
臨時檢疫局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●臨時檢疫職員ノ件

明治三十一年十月十八日
勅令第二百六十八號

改正

●明治三十三年五月
勅令第二百二十三號
●明治三十五年三月
勅令第六十五號

朕臨時檢疫職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

檢疫豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ衛生局ニ屬セシム

事務官 專任三人 奏任

技手 專任二人

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

臨時檢疫局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●第二節 土木監督署

●土木監督署官制

明治二十七年七月
勅令第六十六號

改正

●明治三十三年三月
勅令第六十號
●明治三十五年三月
勅令第六十七號

朕土木監督署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木監督署官制

第一條 地方土木事業監督ノ爲メ府縣ヲ分置シテ七土木監督區トス其區域左ノ如シ

第一區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
山梨縣

第二區

宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

第三區

新潟縣 長野縣 石川縣 富山縣

第四區

三重縣 愛知縣 靜岡縣 岐阜縣 福井縣

第五區

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 和歌山縣 德島縣
高知縣

第六區

鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 香川縣 愛媛縣

第七區

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣

沖繩縣

第二條 各土木監督區ニ土木監督署ヲ置ク其ノ位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條 各土木監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長 技師

技手 書記

第四條 署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員ヲ指揮ス

第五條 署長ハ區内地方ノ土木事業ヲ監視シ利害得失ヲ查察シ内務大臣ニ報告ス

第六條 署長ハ第一條ニ記載シタル事務ノ外内務大臣ノ命ヲ承ケ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ及其

ノ施行ヲ管理ス

第七條 技師ハ各署ヲ通シ二十一人ヲ以テ定員トシ内四人以内ヲ勅任トス署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分

掌シ並第六條ノ事務ヲ補助ス

土木監督署ニ勅任技師ヲ置クトキハ勅任技師ヲ以テ署長トス

第八條 技手ハ各署ヲ通シ二十三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第九條 書記ハ判任トシ各署ヲ通シ十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 直轄土木事業ノ管理ハ第一條ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

附則

第十一條 本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

●土木監督署處務規程

明治三十二年十一月
內務省訓令第百三十七號

改正

●明治三十三年七月
訓令第百二十五號

土木監督署

土木監督署處務規程左ノ通定ス

土木監督署處務規程

- 第一條 署長ハ區内ヲ巡視シ及署員ニ區内巡回又ハ區外出張ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 署長ハ判任官以下ノ歸省、看護、墓參又ハ轉地療養ヲ許可シ及其除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 署長ハ雇員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得
- 第四條 署長ハ署中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 府縣知事ノ稟伺又ハ報告等ニシテ土木監督署ヲ經由スルモノハ署長ニ於テ審査ヲ遂ケ意見ヲ付シ之ヲ進達スル
- 第六條 土木監督署ヲ經由スル府縣知事ノ稟伺ニシテ左ニ掲ケタル事項ノ内事體ノ輕易ナルモノハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外署長ニ於テ依命通牒ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得
 - 一 河川法ヲ施行シタル河川ニ關スル新築、改築又ハ除却工事ノ施行並其計畫及工費豫算
 - 二 河川法第十七條及第十八條ニ依リ與フル許可
 - 三 河川法第三十九條ニ依ル建築物ノ除却
 - 四 明治三十二年內務省令第二十一號ニ依レル河川ノ工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對スル補助ニシテ河川ニ關スル費用ノ内該補助費ニ充テタル豫算金額以內ニ於テ支出シ得ルモノ
 - 五 砂防法ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケタル砂防工事ノ計畫及其工費豫算

●河川道路港灣調査ニ關スル職員ノ件

明治二十七年七月
勅令第八十四號

改正

●明治三十一年十月
勅令第二百六十二號
●明治三十三年三月
勅令第六十二號

朕河川道路港灣調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川道路及港灣ニ關スル事業ノ臨時調査ヲ爲サシムル爲メ内務省及土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

内務省

技師 一人

土木監督署

技師 七人

技手 二十一人

本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

●内務省直轄臨時土木工事施行ニ關スル職員ノ件

明治二十七年七月
勅令第八十五號

改正

●明治二十九年三月
勅令第六十四號
●明治三十三年三月
勅令第五十號
●明治三十四年四月
勅令第四十八號
●明治三十五年三月
勅令第六十六號

朕内務省直轄臨時土木工事施行ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

技師 二十四人
技手 八十九人

書記 二十三人 判任

本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

●第三節 衛生試験所

●衛生試験所官制 明治二十三年八月 勅令第百五十五號

改正

●明治二十四年七月 勅令第百五十五號
●明治二十六年十月 勅令第百三十一號
●明治三十一年十月 勅令第百六十五號
●明治三十三年三月 勅令第百六十二號
●明治三十五年三月 勅令第百六十三號

朕衛生試験所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛生試験所官制

第一條 東京大阪横濱ニ衛生試験所ヲ設ク

第二條 衛生試験所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試験ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條 各衛生試験所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
技手
書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 技師ハ奏任トシ專任九人ヲ以テ定員トス各試験所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試験ノ事務ヲ分

掌ス

第六條 技手ハ判任トシ專任二十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 各試験所事務ノ分限ハ内務大臣之ヲ定ム

● 衛生試験所事務分課

明治二十三年八月九日官報

検明部

- 一 大氣用土土壤衣服飲食物礫泉等ニ關スル事務
- 一 警察及裁判醫事ノ化學的ニ關スル事務
- 一 病原檢索ニ關スル事務

藥劑部

- 一 藥品ノ精粗眞價及其醫藥用ノ適否ニ關スル事務
- 一 藥品ノ性質及試驗方法調査ニ關スル事務
- 一 藥品ノ主成分檢出ニ關スル事務

● 第四節 血清藥院

● 血清藥院官制 明治二十九年三月
勅令第百四號

改正 明治三十一年十月
勅令第百六十六號 明治三十四年四月
勅令第七十號

朕血清藥院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

血清藥院官制

第一條 東京ニ血清藥院ヲ置ク

第二條 血清藥院ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ血清製造ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 血清藥院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

技師 專任二人

技手 專任六人

書記 專任二人

第四條 院長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ院内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第五條 技師ハ院長ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ヲ分掌ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トシ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 血清藥院事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

●血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件

明治二十九年五月
勅令第二百二十四號

改正

●明治三十二年三月
勅令第五十八號

朕血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
血清藥院ニ顧問一人ヲ置キ手當ヲ給ムルコトヲ得
顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五節 痘苗製造所
 第一條 痘苗製造所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ痘苗製造ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二條 痘苗製造所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 一人
 技師 專任二人
 技手 專任十人
 書記 專任三人
 第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
 第四條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ製造ニ關スル事ヲ掌ル
 第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事ニ從フ
 第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第七條 痘苗製造所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

●第五節 痘苗製造所

●痘苗製造所官制 明治二十九年三月勅令第百五號

改正 ●明治三十一年十月 ●明治三十五年十二月
勅令第百六十七號 勅令第百六十九號

朕痘苗製造所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
痘苗製造所官制

第一條 東京ニ痘苗製造所ヲ置ク

第二條 痘苗製造所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ痘苗製造ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 痘苗製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

技師 專任二人

技手 專任十人

書記 專任三人

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第五條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ製造ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事ニ從フ

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 痘苗製造所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

●痘苗製造所ニ顧問ヲ置クノ件

明治三十二年四月
勅令第百二十九號

朕痘苗製造所ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 痘苗製造所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得
- 第二條 顧問ハ所務ニ關シ意見ヲ開陳ス
- 第三條 顧問ハ高等官ヲ以テ之ヲ充ツ
- 第四條 顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第五條 顧問ニハ手當ヲ給セス

第六節 傳染病研究所
 第一條 東京ニ傳染病研究所ヲ置ク
 第二條 傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防、治療方法ノ研究、豫防
 消毒治療材料ノ檢査及傳染病研究方法ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル
 第三條 傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 一人 勅任
 部長 專任三人 奏任
 助手 專任八人 判任
 書記 專任四人 判任
 前項定員ノ外二十人以内ノ無給助手ヲ置クコトヲ得
 第四條 所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス
 第五條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ研究檢査講習ヲ掌ル
 第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ研究檢査講習ニ從事ス
 第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第八條 傳染病研究所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム
 附則

●第六節 傳染病研究所

●傳染病研究所官制 明治三十二年三月 勅令第九十三號

朕傳染病研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 傳染病研究所官制

第一條 東京ニ傳染病研究所ヲ置ク

第二條 傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防、治療方法ノ研究、豫防
 消毒治療材料ノ檢査及傳染病研究方法ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 勅任

部長 專任三人 奏任

助手 專任八人 判任

書記 專任四人 判任

前項定員ノ外二十人以内ノ無給助手ヲ置クコトヲ得

第四條 所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ研究檢査講習ヲ掌ル

第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ研究檢査講習ニ從事ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 傳染病研究所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第七節 臨時檢疫

臨時海港檢疫所官制

明治三十三年三月
勅令第七十五號

朕臨時海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時海港檢疫所官制

第一條 臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時海港檢疫所ハ内務大臣ノ命ヲ承ケ地方長官之ヲ管理ス

第三條 臨時海港檢疫所ノ開設及閉鎖ハ内務大臣之ヲ告示ス

第四條 臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

臨時海港檢疫官補

臨時海港檢疫所書記

臨時海港檢疫員

臨時海港檢疫醫員

第五條 所長ハ臨時海港檢疫所所在道廳府縣ノ警部長ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條 臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ道廳府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ地方長官之ヲ命ス

第七條 臨時海港檢疫員及臨時海港檢疫醫員ハ地方長官之ヲ命シ其ノ待遇ハ判任トス

第八條 臨時海港檢疫官補ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ニ従事ス

第九條 臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス